

碑文にみる沖縄語

多和田, 眞一郎

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言

(巻 / Volume)

8

(開始ページ / Start Page)

167

(終了ページ / End Page)

220

(発行年 / Year)

1983-12-20

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012730>

碑文にみる沖縄語

多和田真一郎

『琉球国中碑文記』（漢字仮名混じり文）

索引及び用例

I たまおとんのひのもの （ 1501年）

II 石門之東之碑文（国王頌徳碑）
（ 1522年）

III 石門の西のひのもの（真珠湊碑文）
（ 1522年）

IV 崇元寺之前東之碑うらの文 （ 1527年）

V かたはなの碑おもての文 （ 1543年）

VI 添継御門の南のひのもの （ 1546年）

VII やらさもりくすくの碑おもての文
（ 1554年）

VIII 浦添城の前の碑おもての文 （ 1597年）

IX ようとれのひのもの （ 1609年）

X 本覚山碑文 （ 1624年）

凡例

1.本文は、「伊波本」をもととし、東恩納本（甲乙）『仲原善忠全集 第二巻 文学篇』及び塚田清策『琉球国碑文記』を参照した。

2.本文を、適宜分かち書きにし、句読点を施した。（1行30字とした。）（行数・字数を示す数字を付した）（印刷の都合上横書きとした）

3.索引は、見出し語を五十音順に並べる。

4.用例は、出順（年代順、行順）に並べる。ただし、五十音順としたほうがよいと思われる場合は、そのようにする。

用例中における見出し語相当部分を「——」

で示す。

5.所在個所を「I(1)1」のように示す。これは「たまおとんのひのもの」の1行目の一字目であることを示している。同じように、「II(2)5」は「石門之東之碑文」の2行目の5字目である。

6.助数詞「一日」「一人」の前の漢数字は、便宜上、字音による50音順にして配列した。たとえば、「一日」「二日」は「いちにち」「ににち」とし、「一人」「二人」は「いちにん」「ににん」とする。

7.漢字のあてられるものは、見出し語の次に（ ）に入れて示した。漢字のものは、そのまま見出し語とした。

8.同一音となる見出し語は、ひらがな・カタカナ・漢字の順とする。

9.名詞・動詞・形容詞・副詞・接統詞・助動詞・助詞（格助詞・接統助詞・副助詞・終助詞）・接辞の順とした。品詞名は、略号とし、〈 〉で示す。次のとおり。

| | |
|-------------|--|
| 〈名〉 = 名詞 | 〈動〉 = 動詞 |
| 〈補動〉 = 補助動詞 | 〈形〉 = 形容詞 |
| 〈副〉 = 副詞 | 〈接〉 = 接統詞 |
| 〈助動〉 = 助動詞 | 〈格助〉 = 格助詞 |
| 〈接助〉 = 接統助詞 | 〈副助〉 = 副助詞 |
| 〈終助〉 = 終助詞 | 〈接辞〉 = $\left\{ \begin{array}{l} \text{接頭辞} \\ \text{接尾辞} \end{array} \right.$ |

10.「⇔」は、その項と対照せよの意（主に、かなづかいに関して）。

11. (漢字の)旧字体を新字体に改めた。ただし、(どのような言葉がどのような形で碑文の中に
両様現れる例については違いを示した。 存在しているかを知るのが目的であって、見易
例 「万」と「萬」。 さを旨としたので、本文の行数あるいは1行の
字数などは、原本通りではない。)

I たまおとんのひのもん (1501年)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
 (1) 首里おきやかもひかなし まあかとたる
 2 御一人 よそひおとんの 大あんし おきやか
 3 御一人 きこゑ大きみの あんし おとちとの もいかね
 4 御一人 さすかさの あんし まなへたる
 5 御一人 中くすくの あんし まにきよたる
 6 御一人 みやきせんの あんし まにきよたる
 7 御一人 こゑくの あんし まさふろかね
 8 御一人 きんの あんし まさふろかね
 9 御一人 とよみくすくの あんし おもひふたかね
 10
 11 しよりの 御ミ事 い上九人
 12 この 御すゑ 千年 万年に いたるまで
 13 この ところに おさまるへし。
 14 もし、のちに あらそふ 人 あらは、
 15 この すミ 見るへし。
 16 この かきつけ そむく 人 あらは、
 17 てんに あをき、ちに ふして たゝるへし。
 18 大明弘治十四年九月吉日

II 石門之東之碑文 (国王頌徳碑) (1522年)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
 (1) 首里おきやかもいかなしの 御代に ミヤこより ち金丸 ミこし
 2 ミ玉の わたり申候 時に たて申候 ひの もん。
 (以下漢文、略)
 3) 大明嘉靖元年壬午12月吉日 住山円覚仙岩叟謹記之

III 石門の西のひのもん (真珠湊碑文) (1522年)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

- ① 首里の王 おきやかもいかなし天の ミ御ミ事に、ま玉ミなどの
 2 ミち つくり、はし わたし申候 時の ひの もん。
 3 嘉靖元年 ミつのへむまのとし 四月九日 きのとのとりのへに、
 4 きこゑ大きききみ の おれめしよわちへ、まうはらいの 時に、
 5 御せるゝ たまわり申候。
 6 とよミもり よそいもり おくのみよ くもことまりに、
 7 ま玉はし くにのまたや わたしよわちへ、つかしよわちへ、
 8 たしきやくき つさしよわちへ、あさかかね ととめわちへ、
 9 ミしまよねん みくによねんてて、御ゆわい めしよわちや事、
 10 千人の さとぬしへ あくかへ そろて、御はい おかミ申候。
 11 この はしハ、くにの あんし けすの ため、又 世の
 12 御さうせの ために、ねたてひかわ、又 とよミくすく。
 13 此 くすくと ミつのかくこのために、一はんの さとぬしへ
 14 あくかへ。はへはら しまおそい大さと ちへねん さしきわ、
 15 ま玉はしお わたり、下しましり とともに かきのはなちに
 16 せいそろい。
 17 天三十三天、地は 十八天、あかめたてまつり候て、三百人
 18 そうたち、はしくやうの 御ゆわい 申候。
 19 此 すみの ことはハ 三人の 世あすたへ
 20 まかねたる くにかみの 大やくもい
 21 まうしかね かうちの 大やくもい
 22 たるかねもい たくしの 大やくもい

| |
|-------|
| くもり |
| 伊波本は |
| 「くりこ」 |

IV 崇元寺之前東之碑 うらの文 (1522年)

- ① あんしも けすも くまにて むまから おれるへし。
 (西之碑モ同ジ)

V かたはなの碑 おもての文 (1543年)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

- ① 首里天の 御ミ事 をかみ申、みち つくり、まつ うへ申候
 2 ひの もん。
 3 大りうきう国 中山王 尚清ハ、そんとんより このかた
 4 二十一代の 王の 御くらひを つきめしよわちへ、天より 王の
 5 御なをは 天つき王にせと さつけめしよわちへ、御いわひ事

6 かきりなし。王かなしハ、むまれなから むかしいまの 事を
 7 さとりめしよわちへ、天下を おさめめしよわる 事、むかし
 8 もろこしの ていわう きよう しゆんの 御代に になり。
 9 しかれは、御たかへめしよわる もり あり。たいりより
 10 ひかしに あたりて へんの たけと いふ。これハ、
 11 きこゑ大ききミ \searrow 、かミ ほとけの 御あそひめしよわる
 12 ところ。あめ ふる 時ハ、とろ つち ふかさ あるけに、
 13 国王の 御ミ事に、ミちを つくり、まつを うへれとの
 14 御ミ事を をかミ、くに \searrow の あんしへ あすたへ
 15 大やくもいた 里主へ けらへ あくかへ、こころ 一に あわせ、
 16 ちからを そろへ、いしを はめ、まつを うへれハ、ミちハ
 17 きよらく、まつハ すゝし。一すしの ミちに 千りやうの 金を
 18 人々 ミおほけに あひ申候。されは、
 19 嘉靖二十二年 ミつのとのおう 六月二十四日 ひのとのとりのへに、
 20 きこゑ大ききミ \searrow の をれめしよわちへ
 21 天つき王にせの あんしをそひかなし、
 22 ミ御ミつかひ めしよわちへ、あまこ あわしめしよわちへ、
 23 御ほこりめしよわちや事、おもひくわへ くに \searrow の あんしへ
 24 あすたへ 大やくもいた 里主へ けらへ あくかへ そろて
 25 ミはい をかミ申候。おひ人 わか人 めとも わらへに
 26 いたるまで よるも ひるも 御たかへ し申候。ねかひ事
 27 かなひ、よろこひ、たのしむ 事 かきりなし。
 28 大明嘉靖二十二年 ミつのとのおう 八月大吉日
 29 世あすたへ 三人
 30 大さとの 大やくもい まふとかね
 31 きすゝの 大やくもい いぬたるかね
 32 ミや平の 大やくもい まいくさかね
 33 奉行 一人
 34 花くすくの 大やくもい ま五ら

そろへ
 伊波本は
 「そへ」

VI 添継御門の南のひのもん (1546年)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
 ① 首里の王 天つき王にせの あんしおそいかなし天の
 2 ミ御ミ事に、すゑつきの 御ちやう 御石かき つミ申候 時の
 3 ひの もん。

4 首里天つきの あんしおそいかなし天の ミ御ミ事、御くすくの
 5 御石かき きよらさ ちよさ あれとも、御くすくの こし
 6 あて、はへおもての ひとへに ありよるけに、首里の 御世の
 7 御さうせ めしよわちへ 御石かき つませて ミ御ミ事
 8 をかミ候て、くにの あんしへ ミはんの 大やくもいた、
 9 里ぬしへ けらへ あくかへ こくより 上下、又 おくとより
 10 上、ミヤこ やへまの おゑか人 大小の 人々 そろて、
 11 御石かき つみ申候。御石かきの ねたての ふかさハ 二ひろ、
 12 あつさハ 五ひろ、たけハ 十ひろ、なけハ 二百三十ひろに、
 13 つみみちへて 御くらともに けらへ申候。
 14 嘉靖二十五年 ひのへむまの年 八月一日 ミつのとりのへに、
 15 きこゑ大きみきミの をれめしよわちへ、まうはらへの 時に、
 16 御せゝる 御たほひ めしよわちへ、首里もり またまもり
 17 けらへて、くもこたけ 世つきたけ おりあけわちへ、
 18 つミあけわちへ、世の こし あて あをりやたけ
 19 おりあけわちへ、つミあけわちへ、すゑつきの ミ物
 20 いちやちや けらへわちへ、御ゆわい めしよわちへ 御おもろ
 21 御たほい めしよわちや事、おもひくわへ くにの
 22 あんしへ 大やくもいた 里主へ けらへ あくかへ こくより
 23 上下、おくとより 上、ミヤこ やへまの おゑか人
 24 しま ともに ミはい をかミ申候。
 25 又 九月三日 ひのとのミのへに、
 26 なるやの大ぬし きみの 御のほりめしよわちへ、
 27 首里天つきの あんしおそひかなし、ミ御ミつか井
 28 めしよわちへ、御ゆわひ めしよわちへ、御おもろ御たほい
 29 めしよわちや事、そろて ミはい をかみ申候。
 30 又 ちやうらう そうたち そろて、御石かきの 御くやうの
 31 御ゆわひ申候。
 32 この 御石かき つみ申候 あひたハ、日々の ミ御ほけハ
 33 かすしらす、月々に おゑか をかみ申候。みはいハ、
 34 首里天つきの あんしおそひかなし天の ともと とひやくさと
 35 ミはい をかミ申候。
 36 嘉靖二十五年 ひのへむま 十二月三十日に するし申候。
 37 世あすたへ 三人
 38 かなはの 大やくもい しほたるかね

| |
|---------|
| ちやうらう |
| 伊波本は |
| 「ちやうちう」 |

- 39 かうちの 大やくもい たるかね
 40 くにかみの 大やくもい しほたるかね
 41 奉行 三人
 42 しやなの 里主 ま五ら
 43 花くすくの 里主 まさかひ
 44 まふにの 里主 ま三ら

VII やらさもりくすくの碑 おもての文 (1554年)

- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
 (1 琉球国 中山王
 2 尚清 てにつきわうにせの あんしおそひかなしの ミ御ミ事。
 3 国の ようし、とまりの かくこの ために、やらさもりの
 4 ほかに くすく つませてて おかて、くにの あんしへ
 5 ミはんの さとぬしへ けらへ あくかへ かミしも ち
 6 はなれ そろて、からめちへ、くすく つミつけて
 7 ミおやしちやれは、
 8 嘉靖三十二年 ミつとのうし 五月四日 つちのとのとりのへに、
 9 きこゑ大ききミの をれめしよわちへ、まうはらひ
 10 めしよわちやる ミせせるに、
 11 やらさもり やへさもり、いしらこは、ましらこは、
 12 おりあけハちへ、つミあけハちへ、ミしまよねん おくのよねん
 13 世そふもり 国のまでや けらへハちへ、このミよハちへ、
 14 たしきやくき ついさしよハちへ、あさかかね とゝめハちへ、
 15 まう はらて、みよ はらててゝ いのりめしよハちやるけに、
 16 ともゝ すゑ、せいくさ よせらやいてゝと
 17 わうかなしむ ミはひ おかミめしよはる。かミしもの あんし
 18 けす そろて 千万の ミはひ おかて あり。
 19 又 ちやうらう はうすた そろて ちかための およハひ
 20 しめさしよはる。
 21 おきなハの 天きや 下ハ、きこゑ大きみの 御せちの
 22 ミまふりめしよはるけに、むかしから いくさ かちよくの
 23 きちやる ことハ なきやもの やれとも
 24 御世の おさうせ 国の ようしの ために いきやてゝ
 25 いよことの あら 時や ミはんの 御主人。一はんの せいや
 26 しより御城の 御まふり。一はんの せいや なはの はん。

ちやうらう
 伊波本は
 「ちやうちう」

- 27 一はんの せい 又 はゑはら しまおそい大さと
 28 ちへねん さしき しもしましりきやめの せいや
 29 かきのはなち やらさもりくすくに よりそふて、ミおやたいり
 30 おかむやに おさためめしよハやる み御ミ事ハ しま世の
 31 てやちきやら ねいし まいしの やに いつきやめむ
 32 いきよくまし。くるくまし。
 33 大明嘉靖三十三年六月吉日
 34 世あすたへ 三人
 35 くすくまの 大やくもい まいくさ
 36 うちまの 大やくもい まとく
 37 こちひらの 大やくもい まうし
 38 ふきやう 一人
 39 かつれんの 大やくもい まふとう

同碑うらの文

- 40 やらさもりくすくの かくこ、又 ねたてひかわの ミつの
 41 かくこハ、三人 おろくの 大やくもい きまの 大やくもい
 42 かなくすくの 大やくもい。いつきやめむ ちよく かたく
 43 かくこ するへし。

Ⅷ 浦添城の前の碑 おもての文 (1597年)

- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
 (1 首里天の ミ御ミ事に たいへいけう たひらはし つミ申 時の
 2 ひの もん。りうきうこく ちうさんわう
 3 しやうねいハ、そんとんより このかた 二十四代の わうの
 4 御くらゐを つきめしよわちへ、うらおそひより しよりに
 5 てりあかりめしよわちや事、
 6 てんより わうの 御なをは、てたかすゑ あんしおそひ
 7 すゑまさる わうにせて、つけめしよわちへ、千萬の
 8 御ゆわい事 あり。しかれば、
 9 首里てたかすゑ あんしおそひかなし天の ミ御ミ事。
 10 くにの あち けす たミひやくしやうの ため、御世の
 11 御さうせ めしよハちへ、
 12 たひらおほなハ たひらの かはら、雨 ふる 時ハ ところ

13 つち ミつの ふかさ あるけに、はし かけさせ、
 14 きほくひりまで みちに いし はめさせて、 をかて、
 15 ミはんの 大やくもいた さとぬしへ けらへ あくかへ
 16 かミしも ち はなれ そろて、ミち はし つミつけて
 17 ミおやしたれハ、
 18 萬曆二十五年 ひのとのとり 八月十二日 つちのとのミのへに、
 19 かミほとけの をれめしよハちゑ、まうはらひ めしよはちやる
 20 ミせゝるに、
 21 たひらもり おしあけもり、いしらこは ましらこは
 22 おりあけわちへ、つミあけわちへ、くもこはし ミ物はし
 23 かけよわちへ、わたしよわちへ、ミしまよねん くにのまでや
 24 このミよわちへ、けらへわちてゝ、いのりめしよわちやるけに、
 25 きこゑ大きみかなし 玉うらおそひに 御ちよわひ
 26 めしよハちや事、
 27 わうかなしの おほこりめしよハちゑ、おらおそひの御くすく世の
 28 つちに 御ちよわいめしよハちゑ、御くすくの うちほかの
 29 御いへ ひのかミ 御たかへめしよわちや事、
 30 あち けす そろて ミはい おかミ申候。
 31 又 くに の あちへ ちやうらうた あすたへ
 32 かなそめはつまき はうすた ミはんの 大やくもいた
 33 さとぬしへ けらへ あくかへ 御よひめしよわちへ、
 34 御いちやわりハ 千りやうの 金よりも なを まさりの
 35 ミおほけに あひ申候。
 36 又 うらおそひまさりの 大やくもいた さとぬしへ けらへ
 37 あくかへ おゑか人 のろへ、しまの あすた くにの あむた、
 38 大小の ゑくか おなこ ともに 御よひめしよわちへ、
 39 ミおほけハ かすしらす おゑか たまわり申。
 40 ミはい おきなハの 天か下の あち けす おゑ人 わか人
 41 おなこ わらへまでも おもひ事ハ、
 42 首里てたかすゑ あんしおそひかなし天の ねいし まいしの
 43 やに いつまでも 御ちよわいめしよわる 御かほう
 44 ねかひ申し候て、よるも ひるも ミはい をかミ申候。
 45 萬曆二十五年 ひのとのとり 九月大吉日
 46 世あすたへ 三人
 47 くにかミの 大やくもい ま五ら

- 48 とよミ城の 大やくもい まうし
 49 なこの 大やくもい またる
 50 ふきやう 二人
 51 くすくまの 大やくもい またる
 52 かハかミの 大やくもい またる

IX ようとれのひのもん (1609年)

- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
 (1) りうきう国 てたかすゑ あんしおそい すへまさる
 2 王にせかなしは うらおそいより しよりに
 3 てりあかりめしよわちやこと、うらおそいの ようとれは
 4 ゑそのてたの 御はか やりよるけにてゝ、御さうせ
 5 めしよわちへ、ちよく きよらく けらゑらしめしよわちへ、
 6 大ちよもいかなし おやかなし ミ御ミつかい めしよわちへ、
 7 あとハ てたかすゑ あんしおそいかなしも 御ちよわひ
 8 めしよわに、あに あれはと 千代 萬代 なるまでも 御なハ
 9 のこらに しゆるてゝ、御さうせ めしよわちへと この ひの
 10 もんハ たてめしよわちやる。
 11 この 御はかの さうちハ、うらおそいまきりより ほん 正月
 12 まゑに きよらく からめくへしと ミ御ミ事 おかミ申候。
 13 世あすたへ 三人、いけくすくの 大やくもい よむたもさの
 14 大やくもい とよみくすくの 大やくもい。
 15 そうふきやう 二人、あはこんの 大やくもい こちひらの
 16 大やくもい。
 17 いしふきやう 一人、たまくすくの 大やくもい。
 18 この すミの あさく ならば ほるへし。
 19 萬曆四十八年 かのへさる 八月吉日

X 本覚山碑文 (1624年)

- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
 (1) 首里の王 天きやすゑ あんしおそいかなしの おなこの
 2 おやかなしの 御すきりめしよわちや事 ミいくに 御はか
 3 けらへわちへ 御ミつかい すれてて、ミ御ミ事
 4 をかミ申候 ほとに、石の さいく あつめ候て、一七日の
 5 うちに からめきミちへて、

6 天啓四年 甲子 十月六日 ひのとのゐのへに、御おくり し申候。
7 あに あれは、国中の 僧侶 めとも わらへの いふに
8 およひ申さす。
9 をりふし 唐より 御つかいの ちいへい 御わたり候て
10 御さ候間、御とむらひに いろいろの かさり物を すゑ、
11 かくにて 代の 官人の さいもん よミ候て ミはい
12 からめき申候。
13 かに ある 事は 昔今にも あるましく候ほとに、末代の
14 するへ の ために ひの もん 御たてめされ候。
15 此 御はかところは、大あんしおしられの おもひくわへ
16 ゑくか 御三人、おなこ 御五人に 御給り候ほとに、
17 千年萬年までも 此 御すしより ほかに あんしも けすも
18 入事 あらは、天に あふき、地に ふして たたるへし。
19 世あすたへ 三人、くしかミ まによこ 国かミ まさふろ
20 いまきしん 思ひとく。
21 総奉行 なか城 おもひ二ら。
22 石ふきやう あたにや太郎 敬白
23 于時大明天啓四年竜集甲子冬十月如意珠日

索引 及び用例

あ

あかめ(崇め)〈動〉

—たてまつり候て III(17)14

あかり(-上がり)〈補助〉

てり—めしよわちやこと IX(3)3

あくかへ(赤頭)〈名〉

III(10)12, III(14)2, V(15)16, V(24)21,

VI(9)11, VI(22)22, VII(5)17, VIII(15)23,

VIII(33)12, VIII(37)2

あけ(-上げ)〈補助〉

おり—わちへ VII(22)4

つミ—ハちへ VII(12)12

つミ—わちへ VI(18)4, VI(19)12, VIII(22)12

あさかかね 〈名〉

III(8)17, VII(14)18

あさく(浅く)〈形〉

—ならばほるへし。 IX(18)8

あすた(長老達)〈名〉

しまの— VIII(37)20

あすたへ(長老部)〈名〉

V(14)21, V(24)1, VIII(31)21

世— III(19)21, V(29)3

あそひ(遊び)〈動〉

御—めしよわる V(11)21

あたにや太郎(安谷屋太郎)〈名〉

石ふきやう— X(22)7

あたり(当たり)〈動〉

ひかしに—て V(10)6

あち(按司)〈名〉⇒あんし

くにの—けす VIII(10)6

—けすそろて VII(30)2

天か下の—けす VIII(40)17

あちへ(按司部)〈名〉

くにの— VIII(31)10

あつさ(厚さ)〈名〉

—ハ五ひろ VI(12)2

あつめ(集め)〈動〉

さいく—候て X(4)18

-あて(-当て)〈接辞〉

こし— VI(6)2, VI(18)16

あと(後)〈名〉

—ハ IX(7)1

あに 〈副〉

—あれは IX(8)7, X(7)1

あはこん(阿波根)〈名〉

—の大やくもい IX(15)11

あひ(会ひ)〈動〉

ミおほけに—申候。 V(18)10, VIII(35)8

あひた(間)〈名〉

御石かきつみ申候—ハ VI(32)14

間 〈接助〉

御さ候— X(10)4

あふき(仰ぎ)〈動〉⇒あをき

天に—地にふして X(18)11

あまこ(眼)〈名〉

—あわしめしよわちへ V(22)15

あむた 〈名〉

くにの— VIII(37)28

あめ(雨)〈名〉

—ふる時ハ V(12)5

雨 〈名〉

—ふる時ハ VIII(12)19

あら(有ら)〈動〉

あらそふ人—は I(14)20

そむく人—は I(16)20

入事—は X(18)4

いよことの—時や VII(25)8

- あらそふ(争ふ)〈動〉
 —人あらは I(14)13
 あり(有り)〈動〉
 ひとへに—。
 たるけに VI(6)17
 あり(有り)〈動〉
 もり—。 V(9)19
 御ゆわい事—。 VIII(8)8
 あり 〈補動〉
 おかて—。 VII(18)21
 ある(有る)〈動〉
 ふかさ—けに V(12)24, VIII(13)13
 かに—事は X(13)4
 —ましく候ほとに X(13)15
 あれ(有れ)〈動〉
 きよらさちよさ—とも VI(5)16
 あに—は IX(8)10, X(7)4
 あわし(合わし)〈動〉
 あまこ—めしよわちへ V(22)19
 あわせ(合わせ)〈動〉
 ころ—に— V(15)28
 あをき(仰ぎ)〈動〉⇒あふき
 てんに— I(17)10
 あをりやたけ(煽りや嶽)〈名〉
 —おりあけわちへ VI(18)19
 あんし(按司)〈名〉⇒あち
 きこゑ大きみの— I(3)14
 きんの— I(8)10
 こゑくの— I(7)11
 さすかさの— I(4)12
 とよみくすくの— I(9)14
 中くすくの— I(5)12
 みやきせんの— I(6)13
 よそひおとんの大— I(2)15
 くにの—けす III(11)13
 —もけすも IV(1)1, X(17)21
 かみしもの—けす VII(17)27
 あんしおしられ(按司お知らせ)〈名〉
 大—のおもひくわへ X(15)12
 あんしおそい(按司襲い)〈名〉
 てたかすゑ—の IX(1)13
 あんしおそいかなし(按司襲い加那志)〈名〉
 —も IX(7)11
 天きやすゑ—の X(1)12
 あんしおそいかなし天(按司襲い加那志天)
 〈名〉
 天つき王の— VI(1)14
 首里天つきの—のミ御ミ事 VI(4)8
 あんしおそひ(按司襲ひ)〈名〉
 てたかすゑ— VIII(6)21
 あんしおそひかなし(按司襲ひ加那志)〈名〉
 首里天つきの— VI(27)8
 てにつきわうにせの— VII(2)14
 あんしおそひかなし天(按司襲ひ加那志天)
 〈名〉
 首里天つきの—の VI(34)8
 —のミ御ミ事 VIII(9)9
 首里てたかすゑ—の VIII(42)9
 あんしへ(按司部)〈名〉
 くにの— V(14)16, V(23)26, VI(8)14
 VI(22)2, VII(4)26
 あんしをそひかなし(按司襲ひ加那志)〈名〉
 天つき王にせの— V(21)9
 い
 いきや(如何)〈副〉
 —て、 VII(24)23
 いきよく(動く)〈動〉
 —まし VII(32)2

- いくさ(軍)〈名〉
— ちやくのきちやることハ VII(22)20
- いけくすく(池城)〈名〉
— の大やくもい IX(13)10
- いし(石)〈名〉
— をはめ V(16)10
— はめさせてハ VIII(14)14
— のさいくあつめ候て X(4)11
- 石かき(石垣)〈名〉
御— つみ申候時の VI(2)19
御— つみ申候。VI(11)3
御— つみ申候あひたハ VI(32)5
御くすくの御— きよらさちよさあれとも
VI(5)3
御— つませて VI(7)15
御— のねたてのふかさハ VI(11)13
御— の御くやうの VI(30)19
- いしふきやう(石奉行)〈名〉
— 一人 IX(17)1
- 石ふきやう(石奉行)〈名〉
— あたにや太郎 X(22)1
- い上(以上)〈名〉
I(10)18
- いしらこ(石子)〈名〉
— はましらこは VII(11)14, VII(21)15
- いたる(到る)〈動〉
千年万年に— まで I(12)20
わらへに— まで V(26)1
- 一日〈名〉
八月— VI(14)18
一人〈名〉
奉行— V(33)5
ふきやう— VII(38)5
いしふきやう— IX(17)8
— はん(一番)〈名〉
— のさとぬしへ III(13)20
— のせい VII(25)23, VII(26)14, VII(27)2
- いちやちや(板門)〈名〉
— けらへわちへ VI(20)2
- いちやわり(労り)〈名〉
御— ハ VIII(34)3
- いつ(何時)〈名〉
— きやめむ VII(31)21, VII(42)14
— までも VIII(43)5
- 五〈名〉
あつさハ— ひろ VI(12)7
- いぬたるかね(犬樽金)〈名〉
きすゝの大やくもい— V(31)14
- いのり(祈り)〈動〉
— めしよハちやるけに VII(15)17, VII(24)19
- いふ(言ふ)〈動〉
へんのたけと—。 V(10)19
- いふ(言ふ)〈動〉
— におよひ申さす。 X(7)24
- いへ(威部)〈名〉
御くすくのうちほかの御— VIII(29)3
- いま(今)〈名〉
むかし— の事を V(6)23
- 今〈名〉
昔今にも X(13)11
- いまきしん(今婦仁)〈名〉
— 思ひとく X(20)1
- いよこと(異様事)〈名〉
— のあら時や VII(25)2
- 入〈動〉
— 事あらは X(18)1
- いろいろ〈名〉
— のかさり物を X(10)13
- いわひ事(祝ひ事)〈名〉⇒ゆわい事
御— かきりなし。 V(5)25

う

う(卯)〈名〉

みつとの — V(19)13, V(28)15

うし(丑)〈名〉

みつとの — VII(8)13

うち 〈名〉

—七日の — に X(5)1

うちほか(内外)〈外〉

—の御いへひのかみ VII(28)24

うちま(内間)〈名〉

—の大やくもい VII(36)4

うへ(植へ)〈動〉

まつ — 申候ひのもの V(1)25

うへれ(植へれ)〈動〉

まつを — との御ミ事 V(13)22

うへれ(植へれ)〈動〉

まつを — は V(16)21

うらおそい(浦襲い)〈名〉⇒うらおそひ

—のようとは IX(3)15

—よりしよりに IX(2)15

うらおそいまきり(浦襲い間切)〈名〉

—より IX(11)14

うらおそひ(浦襲ひ)〈名〉 うらおそい

—よりしよりに VIII(4)17

うらおそひまきり(浦襲ひ間切)〈名〉

—の大やくもいた VIII(36)4

え ナシ

お

御 〈接辞〉

-あそひ

—めしよわる V(11)20

-石かき

—つみ申候時の VI(2)8

御くすくの — きよらさちよさ VI(5)2

—つませてて VI(7)14

—つみ申候。 VI(11)2

—のねたてのふかさハ VI(11)12

—の御くやうの VI(30)18

この — つみ申候あひたハ VI(32)5

-一人

I(2)2, I(3)2, I(4)2, I(5)2

I(6)2, I(7)2, I(8)2, I(9)2

-いちやわり

—ハ VIII(34)2

-いへ

うちほかの — ひのかみ VIII(29)2

-いわひ事

-かきりなし。 V(5)24

-おくり

—し申候。 X(6)23

-おもろ

—御たほいめしよわちや事 VI(20)27

VI(28)21

-かほう

—ねかひ申し候て VIII(43)22

-くら

—ともにけらへ申候。 VI(13)9

-くすく

—の御石かき VI(4)25

—のこしあて VI(5)21

おらおそひの — VIII(27)25

—のうちほかの VII(28)5

-城

しよりの — の御まふり VII(26)5

-くやう

—の御ゆわひ VI(30)24

- くらひ
王の—をつきめしよわちへ V(4)10
- くらゐ
わうの—をつきめしよわちへ VIII(4)2
- 五人
—に御給り候ほとに X(16)13
- さうせ
首里の御世の—のために III(12)2
首里の御世の—めしよわちへ VI(7)2
御世の—めしよハちへ VIII(11)2
—めしよわちへ IX(4)21, IX(9)12
- さため
—めしよハやる VII(30)8
- 三人
ゑくか— X(16)5
- すきり
—めしよわちや事 X(2)8
- すし
—よりほかに X(17)11
- すゑ
この—千年万年に I(12)9
- せゝる
—御たほひめしよわちへ VI(16)2
- せち
—のミまふりめしよハるけに VII(21)23
- たかへ
—めしよわるもり V(9)6
—し申候。 V(26)15
—めしよわちや事 VII(29)11
- たて
—めされ候。 X(14)17
- たほひ
御おもろ—めしよわちや事 VI(21)2
VI(28)26
- たほひ
御せゝる—めしよわちへ VI(16)7
- 給り
—候ほとに X(16)18
- ちやう
すゑつきの— VI(2)13
- ちよわい
—めしよハちゑ VIII(28)6
—めしよわる VIII(43)11
- ちよわひ
—めしよハちや事 VII(25)19
—めしよわに IX(7)22
- つかい
—のちいへい X(9)10
- とむらひ
—に X(10)6
- な
王の—をは V(5)1
わうの—をは VIII(6)10
—ハのこらに IX(8)27
- のほり
—めしよわちへ VI(26)15
- はか
ゑそのてたの—やりよるけに IX(4)8
この—のさうちハ IX(11)4
ミいくに—けろへわちへ X(2)24
- はかところ
此—ハ X(15)3
- ほけ⇒ おほけ
日々のミ—ハ VI(32)24
- ほこり
—めしよわちや事 V(23)1
—めしよハちゑ VIII(27)8
- ま入
ミはんの— VII(25)19
- まふり

- しより御城の—— VII(26) 9
- ミ事
- しよりの—— I(11)11
- 首里天の—— V(1) 6
- 国王の—— V(13) 5
- ををかミ V(14) 1
- み——ハ VII(30)20
- ミ——に VI(2) 2
- あんしおそいかなし天のミ—— VI(4)21
- ミ——をかみ候て VI(7)26
- あんしおそひかなし天のミ—— VII(2)26
- 首里天のミ——に VIII(1) 7
- あんしおそひかなし天のミ—— VIII(9)22
- ミ——おかみ申候。 IX(12)19
- ミ——をかミ申候ほとに X(3)20
- みつかい
- すれてて X(3) 8
- ミ——めしよわちへ IX(6)17
- みつか井
- めしよわちへ VI(27)19
- ゆわい
- めしよわちや事 III(9)18
- はしくやうの——申候。 III(18)13
- めしよわちへ VI(20)15
- ゆわい事
- 千萬の——あり。 VIII(8) 2
- ゆはひ⇒ およハひ
- めしよわちへ VI(28) 9
- 申候。 VI(31) 2
- 世
- の御さうせ VI(6)28, VII(24) 2, VIII(10)25
- 代
- に II(1)14, V(8)21
- よひ
- めしよわちへ VII(33)17, VIII(38)18
- わたり
- 候て御さ候間 X(9)21
- お <格助>
- ま玉はし——わたり III(15) 6
- おかて(置かて) <動+接助>
- くすくつませてて—— VII(4)16
- おかて(拝で) <動+接助>
- ミはひ——あり。 VII(18)17
- おかミ(拝ミ) <動>
- 御はい——申候。 III(10)25
- ミはひ——めしよはる。 VII(17)12
- ミはい——申候。 VIII(30)16
- ミ御ミ事——申候。 IX(12)23
- おかむ(拝む) <動>
- やにおさためめしよハやる VII(30) 2
- おきなハ(沖繩) <名>
- の天きや下ハ VII(21) 2
- の天か下のあち VIII(40) 6
- おきやか <名>
- よそひおとんの大あんし—— I(2)19
- おきやかもいかなし天(おきやか思い加那志天)
- <名>
- 首里の王の——のミ御ミ事に III(1) 6
- おきやかもひかなし(おきやか思ひ加那志)
- <名>
- 首里——まあかとたる I(1) 3
- おく(奥) <名>
- のミよ III(6)14
- おくのよ(奥の世) <名>
- ねん VII(12)25
- おくと(奥渡) <名>
- より上 VI(9)26, VI(23) 5
- おくのミよ(奥の滞) <名>
- とよみもりよそいもり——くもことまりに III(6)14

- おくり(送り)〈名〉
 御—し申候。 X(6)24
 おさうせ(御了簡)〈名〉⇒御さうせ, さうせ
 御世の— VII(2)6
 おさまる(納まる)〈動〉
 このところに—へし。 I(13)14
 おさめ(治め)〈動〉
 —めしよわる事 V(7)15
 おしあけもり(押し上げ杜)〈名〉
 たひらもり— VIII(2)8
 -おしられ 〈接辞〉
 大あんし—の X(15)15
 -おそい(-襲い)〈接辞〉⇒おそひ, をそひ
 あんし—かなし天の VI(1)17, VI(4)11
 あんし— IX(1)16
 あんし—かなしも IX(7)14
 あんし—かなしの X(1)15
 うら—よりしよりに IX(2)11
 うら—のようとは IX(3)17
 うら—まきりより IX(11)16
 -おそひ(-襲ひ)〈接辞〉⇒おそい, をそひ
 あんし—かなし VI(2)11
 あんし—かなし天の VI(3)11, VIII(4)12
 あんし—かなしの VII(2)17
 うら—まきり VIII(3)6
 大ちよもいかなし(大ちよ思い加那志)〈名〉
 —おやかなし IX(6)1
 おとちとの(おとち殿)
 —もいかね I(3)18
 おとん(御殿)〈名〉
 よそひ—の大あんし I(2)9
 おなこ(女)〈名〉
 大小のゑくか— VIII(3)10
 わか人—わらへまでも VIII(4)2
 —のおやかなしの X(1)23
 —御五人に X(16)9
 おひ人(老ひ人)〈名〉⇒おゑ人
 —わか人めとも V(25)11
 おほ-(大-)〈接辞〉
 たひら—なハ VIII(12)5
 大- 〈接頭〉
 よそひおとんの—あんしおきやか I(2)14
 —あんしおしられの X(15)11
 おほけ 〈名〉⇒御ほけ
 ミ—にあひ申候。 V(18)5, VII(35)3
 ミ—ハ VIII(39)3
 大さと(大里)〈名〉
 しまおそい— III(14)17, VIII(27)22
 —の大やくもい V(30)3
 大ぬし(大主)〈名〉
 なるやの—きみ—の VI(26)5
 おもひくわへ(思ひ子部)〈名〉
 —くに—のあんしへ V(23)13, VI(2)15
 大あんしおしられの— X(15)21
 おもひ事(思ひ事)〈名〉
 —ハ VIII(4)13
 おもひ二ら(思二良)〈名〉
 なか城— X(2)9
 思ひとく(思徳)〈名〉
 いまきしん— X(20)7
 おもひふたかね(思二金)〈名〉
 とよみくすくのあんし— I(9)18
 おもろ 〈名〉
 御—御たほい VI(20)28, VI(28)22
 おやかなし(親加那志)〈名〉
 大ちよもいかなし— IX(6)10
 おなこの—の X(2)1
 大やくもい(大屋子思)〈名〉
 あはこんの— IX(15)17
 いけくすくの— IX(13)17

- うちまの — VII(36) 9
 大きとの — V(30) 8
 おろくの — VII(41)14
 かうちの — III(21)22, VI(39)11
 かつれんの — VII(39)10
 かなくすくの — VII(42) 8
 かなはの — VI(38)11
 かハカミの — VII(52)10
 きすゝの — V(31) 8
 きまの — VII(41)24
 くすくまの — VII(35)10, VII(51)10
 くにかみの — III(20)23, VI(40)(12)
 くにかみの — VI(40)12, VII(47)10
 こちひらの — VII(37)10, IX(16) 1
 たくしの — III(22)23
 たまくすくの — IX(17)18
 とよみくすくの — IX(14)15
 とよミ城の — VII(48)10
 なこの — VII(49) 8
 花くすくの — V(34) 9
 ミヤ平の — V(32) 8
 よむたもさの — IX(14) 1
 大やくもいた(大屋子思い達)〈名〉
 あすたへ — 里主へ V(15) 1, V(24) 6, VI(22) 7
 うらおそひまきりの — VII(36)14
 ミはんの — VI(8)24, VII(15) 7, VII(32)21
 およハひ(御祝ひ)〈名〉⇒御ゆわい, 御ゆわひ
 ちかための — VII(19)24
 およひ(及び)〈動〉
 いふに — 申さす。 X(8) 1
 おらおそひ(浦襲ひ)〈名〉
 —の御くすく VII(27)19
 おりあけ(おり上げ)〈動〉
 くもこたけ世つきたけ — わちへ VI(17)19
 あをりやたけ — わちへ VI(19) 2
 いしらこはましらこは — ハちへ VII(12) 2
 いしらこはましらこは — わちへ VIII(22) 2
 おれ(降れ)〈動〉 をれ
 きこゑ大きききみ の — めしよわちへ III(4)13
 おれる(降れる)〈動〉
 むまから — へし。 IV(1)20
 おろく(小禄)〈名〉
 —の大やくもい VII(41) 9
 おゑか 〈名〉
 —をかみ申候。 VI(33)16
 —たまわり申。 VII(39)14
 おゑか人 〈名〉
 ミヤこやへまの — VI(10)13, VI(23)22
 あくかへ — のろへ VIII(37) 7
 おゑ人(老ゑ人)〈名〉⇒おひ人
 けす — わか人 VIII(40)23
 か
 -か 〈格助〉
 首里てた — すゑ VII(9) 5, VII(42) 5
 てた — すゑ VII(6)17, IX(1) 9, IX(7) 7
 おきなハの天 — 下のあち VIII(40)13
 かうち(河内)〈名〉
 —の大やくもい III(21)17, VI(39) 6
 かきつけ(書き付け)〈名〉
 この — そむく人あらは I(16) 9
 かきのはなち(垣花地)〈名〉
 —にせいそろい III(15)22
 —やらさもりくすくによりそろて VII(29) 2
 かきり(限り)〈名〉
 —なし。 V(6) 1, V(27)17

かく(此く)〈副〉

—にて X(1)1

かくこ(格護)〈名〉

ミつの—のために III(13)12

とまりの—のために VII(3)14

やらさもりくすくの— VII(40)11

ミつの—ハ VII(41)1

—するへし。 VII(43)1

かけ(架け)〈動〉

はし—させ VIII(13)21

くもこはしミ物はし—よわちへ VIII(23)2

かさ(傘)〈名〉

さす—のあんし I(4)8

かさり物(飾り物)〈名〉

—をすゑ X(10)19

かす(数)〈名〉

ミ御ほけハ—しらす VI(33)2

ミおほけハ—しらす VII(39)8

嘉靖 〈名〉

—元年 III(3)1

—二十二年 V(19)1

大明—二十二年 V(28)3

—二十五年 VI(14)1, VI(36)3

—三十二年 VII(8)1

大明—三十三年 VII(33)3

かた(方)〈名〉

そんとんよりこの— V(3)25, VII(3)17

かたく(堅く)〈形〉

ちよく—かくこするへし VII(42)25

かちよく(海賊?)〈名〉

いくさ—の VII(22)24

かつれん(勝連)〈名〉

—の大やくもい VII(39)4

かなくすく(金城)〈名〉

—の大やくもい VII(42)1

-かなし(-加那志)〈接辞〉

あんし—も IX(7)17

あんしおそい—天の VI(1)20, VI(4)14

あんしおそい—の X(1)15

あんしおそひ— VI(27)14, VII(2)20

あんしおそひ—天の VI(34)14, VII(9)15,
VII(42)15

あんしをそひ— V(2)15

おきやかもひ— I(1)9

大ちよもい— IX(6)6

おや— IX(6)12

おなこのおや—の X(2)3

きこゑ大きみ— VII(25)7

わう—む VII(17)3

わう—の VII(27)3

王—ハ V(6)8

王にせ—は IX(2)4

かなそめはつまき(金染鉢巻)〈名〉

あすたへ—はうすた VII(32)2

かなは(我那覇)〈名〉

—の大やくもい VI(38)6

かなひ(叶ひ)〈動〉

ねかひ事— V(27)1

かに 〈副〉

—ある事は X(13)1

金 〈名〉

千りやうの—を V(17)29

千りやうの—よりも VII(34)16

かのへ(庚)〈名〉

—さる IX(19)9

かハかミ(河上)〈名〉

—の大やくもい VII(52)4

かはら(河原)〈名〉

たひらの— VII(12)15

かほう(果報)〈名〉

- 御—ねかひ申し候て VII(43)23
- かミ(神)〈名〉
- ひの— VII(29)8
- ほとけの御あそひめしよわるところ
VI(11)12
- ほとけのをれめしよハちゑ VII(19)2
- 上 〈名〉
- おくとより— VI(10)2, VI(23)11
- かみしも(上下)〈名〉
- ちはなれそろて VII(16)2
- かミしも(上下)〈名〉
- ちはなれそろて VII(5)22
- のあんしけす VII(17)21
- 上下 〈名〉
- こくより— VI(9)21, VI(23)2
- から 〈格助〉
- むま—おれるへし。 IV(1)17
- むかし— VII(22)17
- からめき 〈動〉
- ミちへ X(5)5
- ミはい—申候。 X(12)1
- からめく 〈動〉
- きよく—へしと IX(12)10
- からめちへ 〈動+接助〉
- ちはなれ—、くすくつみつけて VII(6)10
- き
- き(来)〈動〉
- いくさかちよくの—ちやることハ VII(23)2
- きこゑ大ききミ(聞得大君)〈名〉
- のあんし I(3)6
- きみ \searrow V(11)1, VII(9)1
- きミ \searrow V(20)1, VI(15)1
- の御せちの VII(21)15
- きこゑ大ききミ(聞得大君)〈名〉
- きみ \searrow III(4)1
- きこゑ大ききみなし(聞得大君加那志)〈名〉
- 玉うらおそひに御ちよわひ VII(25)1
- きすゝ(宜寿次)〈名〉
- の大やくもい V(31)3
- 吉日 〈名〉
- 六月大— VII(33)12
- 八月大— V(28)20
- 八月— IX(19)17
- 九月大— I(18)16, VIII(45)18
- 甲 〈名〉
- 子 X(6)6, X(23)11
- きのと(乙)〈名〉
- のとり III(3)21
- きほくひり(儀保小坂)〈名〉
- まで VIII(14)2
- きま(儀間)〈名〉
- の大やくもい VII(41)20
- きみ \searrow (君々)〈名〉
- きこゑ大ききミ—の III(4)7
- にるやの大ぬし—の VI(26)9
- きミ \searrow (君々)〈名〉
- きこゑ大ききミ— V(11)7, V(20)7, VI(15)7, VII(9)7
- きや 〈格助〉
- おきなハの天—下ハ VII(21)9
- 天—すゑ X(1)7
- きやう(堯)〈名〉
- しゆんの御代ににたり。 V(8)12
- きやめ 〈副助〉
- しもしましり—の VII(28)17
- いつ—む VII(31)23, VII(42)16
- きよらく(清らく)〈形〉
- ミちは— V(17)1
- ちよく—けらゑらしめしよわちへ IX(5)12

- からめくへしと IX(12)5
- きよらさ(清らさ)〈名〉
- 御石かきの—ちよさあれとも VI(5)7
- きん(金武)〈名〉
- のあんし I(8)6
- く
- くき(釘)〈名〉
- たしきや— III(8)6, VII(14)6
- 九月 〈名〉
- 大吉日 I(18)13, VII(45)15
- 三日 VI(25)3
- くしかみ(具志頭)〈名〉
- まによこ X(19)10
- くすく(城)〈名〉
- 御—の御石かき VI(4)26
- 御—のこしあて VI(5)22
- 御—のうちほかの御いへひのかみ VII(28)19
- つませてて VII(4)6
- つみつけて VII(6)16
- とよみ— III(12)24
- やらさもり—に VII(29)14
- やらさもり—のかくこ VII(40)6
- おらおそひの御— VII(27)26
- 城 〈名〉
- しより御—の御まふり VII(26)6
- くすくま(城間)〈名〉
- の大やくもい VII(35)4, VII(51)4
- くに(国)〈名〉
- のまたや III(7)7
- のあんしけす III(11)9
- のまたや VII(23)24
- のあちけすたミひやくしやうの VII(10)2
- のあむた VII(37)24
- 国 〈名〉
- のようし VII(3)2, VII(24)11
- のまたや VII(13)8
- くにかみ(国頭)〈名〉
- の大やくもい III(20)17, VI(40)6
- くにかみ(国頭)〈名〉
- の大やくもい VII(47)4
- 国かみ(国頭)〈名〉
- まさふろ X(19)20
- くにし(国々)〈名〉
- のあんしへ V(14)10, V(23)20, VI(8)8
- のあちへ VII(31)4
- 国中 〈名〉
- の僧侶 X(7)8
- 九日 〈名〉
- 四月— III(3)18
- 九人 〈名〉
- い上— I(10)21
- くひり(小坂)〈名〉
- きほ—まで VII(14)4
- くま(此処)〈名〉
- にて IV(1)10
- くもこたけ(雲子獄)〈名〉
- 世つきたけおりあけわちへ VI(17)7
- くもことまり(雲子泊)〈名〉
- に III(6)20
- くもこはし(雲子橋)〈名〉
- ミ物はし VII(22)18
- くやう(供養)〈名〉
- はし— III(18)8
- 御—の御ゆわひ VI(30)25
- くら(蔵)〈名〉
- 御—ともに VI(13)12
- くらひ(位)〈名〉⇒くらゐ

- 玉の御—をつきめしよわちへ V(4)11
くらゐ(位)〈名〉⇒くらひ
わうの御—をつきめしよわちへ VIII(4)3
くるく(「狂う」か)〈動〉
—まし VII(32)9
くわ(子)〈名〉
おもひ—へ VI(21)18, X(15)24
月 〈名〉
五—四日 VII(8)17
六—二十四日 V(19)16
六—大吉日 VII(33)10
八—大吉日 V(28)18
八—吉日 IX(19)16
八—一日 VI(14)17
八—十二日 VIII(18)17
九—大吉日 I(18)14, VIII(45)16
九—三日 VI(25)4
十—六日 X(6)10
十—X(23)15
十二—三十日に VI(36)18
官人 〈名〉
代の—の X(11)9
元年 〈名〉
嘉靖— III(3)3
け
敬白
石ふきやうあさにや太郎— X(22)14
けす(下司)〈名〉
あんし—のため III(11)17
あんしも—も IV(1)6, X(17)26
かみしものあんし— VII(18)2
くにあち—たみひやくしやうの VIII(10)9
あち—そろて VIII(30)5
天か下のあち— VIII(40)20
けに 〈接助〉
ふかさある— V(12)26, VIII(13)15
ありたる— VI(6)21
いのりめしよわちやる— VII(15)28, VIII(24)29
ミまふりめしよハる— VII(22)11
やりよる—てて IX(4)16
けらへ—あくかへ(家来赤頭)〈名〉
里主へ— V(15)12, V(24)17, VI(22)18
里ぬしへ— VI(9)7
さとぬしへ— VII(5)13, VII(15)19, VIII(33)8
VIII(36)27
けらへ(造へ)〈動〉
いちやちや—わちへ VI(20)8
—わちへてて VIII(24)10
御はか—わちへ X(3)1
国のまでや—ハちへ VII(13)16
御くらともに—申候。 VI(13)16
首里もりまたまもり—て VI(17)2
けらゑらし(造らゑらし)〈動〉
ちよくきよらく—めしよわちへ IX(5)17
こ
弘治 〈名〉
—十四年 I(18)8
こく(此処)〈名〉
—より上下 VI(9)16, VI(22)27
こく(国)〈名〉
りうきう—ちうさんわう VIII(2)11
国 〈名〉
大りうきう— V(3)6
琉球— VII(1)4
りうきう IX(1)5
国王 〈名〉

- の御ミ事に V(13) 1
- 五月 〈名〉
- 四日 VII(8)16
- 于
- 時大明天啓四年 X(23) 1
- こころ(心)〈名〉
- 一にあわせ V(15)21
- 御さ候 〈動〉
- 御わたり候て—間 X(10) 1
- こしあて(腰当て)〈名〉
- 御くすくの— VI(5)27
- 世の—あをりやたけ VI(18)13
- こちひら(東風平)〈名〉
- の大やくもい VII(37) 4, IX(15)23
- こと(事)〈名〉
- きちやる—ハなきやもの VII(23) 7
- 事 〈名〉
- むかしいまの—を V(6)27
- おさめめしよわる— V(7)24
- よろこひたのしむ—かきりなし。 V(27)15
- かにある—は X(13) 7
- 入—あらは X(18) 2
- こと 〈接助〉
- めしよわちや— K(3)12
- 事 〈接助〉
- めしよわちや— VII(26) 8
- めしよわちや— III(9)29, V(23)11, VI(21)13, VII(29) 8, VIII(5)13, VIII(29)21, X(2)18
- ことは(言葉)〈名〉
- 此すみの—ハ III(19)11
- 五人 〈名〉
- ゑくか御— X(16)14
- この(此)〈名+格助〉
- 御石かき VI(32) 1
- 御すゑ I(12) 6
- 御はかの IX(11) 1
- かきつけ I(16) 6
- そんとんより—かた V(3)23, VIII(3)15
- すみ I(15) 6, IX(18) 1
- ところに I(13) 6
- はしハ III(11) 2
- ひのもんハ IX(9)25
- 此 〈名+格助〉
- 御すしより X(17) 9
- 御はかところは X(15) 1
- くすく III(13) 4
- すみのことは III(19) 5
- このミ(工ミ)〈動〉
- 国のまでやけらへハちへ—よハちへ VII(13)21
- くへのまでや—よわちへけらへわちへてて VIII(24) 2
- これ 〈名〉
- ハ V(10)22
- こゑく(越来)〈名〉
- のあんし I(7) 6
- さ
- さ(歳)〈名〉
- ともゝととひやく—と VI(34)29
- さ 〈接辞〉
- きよら—VI(5)10
- ちよ—VI(5)14
- ふか—V(12)22, VI(11)25, VIII(13)11
- さいく(細工)〈名〉
- 石の—あつめ候て X(4)14
- さいもん(祭文)〈名〉
- よミ候て X(11)13

さうせ(想思)〈名〉

世の御—のために III(12)3

御—めしよわちへ VI(7)3, IX(4)22, IX(9)

御世のお— VII(24)7

御—めしよわちへ VII(11)3

さうち(掃除)〈名〉

御はかの—ハ IX(11)9

さし(刺し)〈動〉

たしきやくきつい—よわちへ VII(4)11

たしきやくきつ—よわちへ III(8)10

さしき(佐敷)〈名〉

ちへねん—わ III(14)26

ちへねん—しもしましり VII(28)7

さす(差す)〈動〉

—かさのあんし I(4)6

させ(助動)

はしかけ— VII(13)23

いしはめ—て、 VIII(14)18

さため(定め)〈動〉

お—めしよわちへ VII(30)9

さつけ(授け)〈動〉

—めしよわちへ V(5)14

里主 〈名〉

しやなの— VI(42)11

花くすくの— VI(43)12

まふにの— VI(44)11

さとぬしへ(里主部)〈名〉

千人の—あくかへ III(10)6

—はんの— III(13)25

みはんの— VII(5)7

ミはんの大やくもいた— VII(15)14, VII(33)2

うらおそひまきりの大やくもいた— VII(36)

21

里ぬしへ(里主部)〈名〉

大やくもいた— VI(9)2

里主へ(里主部)〈名〉

大やくもいた— V(15)8, V(24)13, VI(22)14

さととり(悟り)〈動〉

—めしよわちへ V(7)1

候 〈補助〉

—て

あかめたてまつり— III(17)22

あつめ— X(4)21

御わたり— X(9)25

よミ— X(11)20

ねかひ申し— VII(44)7

ミ御ミ事をかミ— VI(8)5

—。

御たてめされ—。 X(14)22

申—。

ミおほけにあひ—。 V(18)13, VII(35)11

おかみ—。 VII(30)20, IX(12)27

おかミ—。 III(10)29

御ゆわい—。 III(18)19

御ゆわひ—。 VI(31)7

からめき—。 X(12)6

けらへ—。 VI(13)20

御おくりし—。 X(6)30

御たかへし—。 V(26)22

十二月三十日にしるし—。 VI(36)28

御せゝるたまわり—。 III(5)11

御石かきつみ—。 VI(11)10

ミはいをかみ—。 VI(24)17, VI(29)22,

VI(35)9

おゑかをかみ—。 VI(33)20

ミはいをかミ—。 V(25)9, VII(44)26

—(十名詞)

御わたり候て御さ—問 X(10)3

あるましく—ほとに X(13)20

- 御給り——ほとに X(16)21
- 申——(十名詞)
- つみ——あひたハ VI(32)12
- つみ——時の VI(2)26
- わたり——時に II(2)9
- わたし——時のひのもの III(2)15
- うへ——ひのもの V(1)28
- たて——ひのもの II(2)17
- をかミ——ほとに X(4)5
- さる(申)〈名〉
- かのへ—— IX(19)12
- されは 〈接〉
- 嘉靖二十二年 V(18)15
- 三十
- 二百——ひろに VI(12)25
- 三十三天 〈名〉
- 天—— III(17)2
- 三十二年 〈名〉
- 嘉靖—— VII(8)3
- 三十三年 〈名〉
- 嘉靖—— VII(33)5
- 三十日 〈名〉
- 十二月——に VI(36)19
- 三日 〈名〉
- 九月——ひのとのミのへに VI(25)5
- 三人 〈名〉
- の世あすたへ III(19)16
- 世あすたへ—— V(29)8, VI(37)10, VII(34)8,
VIII(46)9, IX(13)7, X(19)7
- 奉行—— VI(41)7
- おろくの大やくもいきまの大やくもい
かなくすくの大やくもい VII(41)6
- ゑくか御—— X(16)6
- 三百人 〈名〉
- そうたち III(17)25
- し
- し(為)〈動〉
- 御おくり——申候。 X(6)28
- 御たかへ——申候。 V(26)20
- しかれは 〈接〉
- 御代ににたり。—— V(9)1
- 御ゆわい事あり。—— VIII(8)11
- 四月 〈名〉
- 九日 III(3)16
- 四十八年 〈名〉
- 萬曆—— IX(19)4
- 下 〈名〉
- おきなハの天きや——ハ VII(21)12
- 天か——のあちけす VII(40)14
- 十 〈名〉
- 二百三——ひろに VI(12)26
- 十月 〈名〉
- 六日 X(6)9
- 甲子冬—— X(23)14
- 一七日 〈名〉
- のうちに X(4)24
- しほたるかね(小樽金)〈名〉
- かなはの大やくもい—— VI(33)17
- くにかみの大やくもい—— VI(40)18
- 十二月 〈名〉
- 三十日にしるし申候。 VI(36)16
- 十二日 〈名〉
- 八月—— VIII(18)18
- 十八天 〈名〉
- 地は—— III(17)10
- 十四年 〈名〉
- 弘治—— I(18)10
- しま(島)〈名〉
- ともにミはいをかみ申候 VI(24)2

- のあすた Ⅷ(37)16
- しまおそい(島襲い)〈接辞〉
—大さと Ⅲ(14)12, Ⅶ(27)17
- しましり(島尻)〈名〉
下— Ⅲ(15)13
しも— Ⅶ(28)13
- しまよ(島世)〈名〉
ミ—にん Ⅲ(9)3, Ⅶ(12)19, Ⅷ(23)18
- しま世(島世)〈名〉
—のてやちきやら Ⅶ(30)25
- しめさし 〈動〉
およハひ—よハる。 Ⅶ(20)2
- しも(下)〈名〉
かミ—のあんしけす Ⅶ(17)23
かみ—ちはなれそろて Ⅷ(16)4
- 下 〈名〉
こくより上— Ⅵ(9)19, Ⅵ(23)3
- しもしましり(下島尻)〈名〉
ちへねんさしき— Ⅶ(28)11
- 下しましり(下島尻)〈名〉
—ともに Ⅲ(15)12
- 小 〈名〉
大—のゑくかおなこ Ⅶ(38)3
- 正月 〈名〉
ほん—まゑに Ⅸ(11)28
- 尚清 〈名〉
中山王—ハ V(3)12
琉球国中山王— Ⅶ(2)1
- しやうねい(尚寧)〈名〉
ちうさんわう—ハ Ⅷ(3)1
- しやな(謝名)〈名〉
—の里主 Ⅵ(42)6
- しゆる(為ゆる)〈動〉
のこらに—てて Ⅸ(9)6
- しゆん(舜)〈名〉
- きやう—の御代に V(8)16
- しより(首里)〈名〉
—の御ミ事 Ⅰ(11)6
うらおそひより—に Ⅷ(4)25, Ⅸ(2)17
- 首里 〈名〉
—の王 Ⅲ(1)1, Ⅵ(1)1, X(1)1
—の御世の御さうせ Ⅵ(6)24
- 首里おきやかもいかなし(首里おぎやか思い加那志)〈名〉
—の御代に Ⅱ(1)1
- 首里おきやかもひかなし(首里おぎやか思ひ加那志)〈名〉
—まあかとたる Ⅰ(1)1
- しより御城(首里御城)〈名〉
—の御まふり Ⅶ(26)2
- 首里てたかすゑ(首里てだが末)〈名〉
—あんしおそひかなし天の Ⅷ(9)1, Ⅷ(42)1
- 首里天 〈名〉
—の御ミ事 V(1)1
—のミ御ミ事 Ⅷ(1)1
- 首里天つき(首里天継ぎ)〈名〉
—のあんしおそいかなし天の Ⅵ(4)1
—のあんしおそひかなし Ⅵ(27)1
—のあんしおそひかなし天の Ⅵ(34)1
- 首里もり(首里杜)〈名〉
—またまもりけらへて Ⅵ(15)19
- しら(知ら)〈動〉
ミ御ほけハかす—す Ⅵ(33)4
かす—すおゑかたまわり申。 Ⅶ(39)10
- しるし(記し)〈動〉
十二月三十日に—申候。 Ⅵ(36)24
- しるへ(標)〈名〉
—のために X(14)1

す

- す 〈助動〉
 およひ申さ—。 X(8)6
 かすしら—。 VI(33)6
 かすしら—おゑかたまわり申。 VII(39)12
- すきり(過ぎり)〈動〉
 御—めしよわちや事 X(2)9
- すし(筋)〈名〉
 御—より X(17)12
 ——のミち V(17)15
- すゝし(涼し)〈形〉
 まつハ— V(17)10
- すへ(末)〈名〉 ⇨すゑ
 —まさる王にせかなしは IX(1)20
- すみ(墨)〈名〉
 此—のことハ III(19)7
- すミ(墨)〈名〉
 この—見るへし。 I(15)9
 この—のあさくならは IX(18)4
- する(為る)〈動〉
 かくこ—へし。 VII(43)5
- すれ(為れ)〈動〉
 御ミつかい—てて X(3)14
- すゑ(末)〈名〉 ⇨すへ
 この御— I(12)10
 ともゝ— VII(16)6
 てたか— VIII(6)18, IX(1)10, IX(7)8
 —まさるわうにせてて VIII(7)2
 首里てたか— VIII(9)6, VIII(42)6
 天きや— X(1)9
- すゑ(据ゑ)〈動〉
 かさり物を— X(10)25
- すゑつき(添継)〈名〉
 —の御ちやう VI(2)7

—のミ物 VI(19)18

せ

- せい(勢)〈名〉
 —そろい III(16)2
 —はんのせいや VII(25)28, VII(26)19
 —はんの— VII(27)7
 しもしましりきやめの—や VII(28)22
- せいいくさ(勢軍)〈名〉
 —よせらやいてゝと VII(16)9
- せち(靈力)〈名〉
 きこゑ大きみの御—の VII(21)24
- 千代 〈名〉
 —萬代なるまでも IX(8)15
- 千人 〈名〉
 —のさとぬしへあくかへ III(10)2
- 千年 〈名〉
 —万年にいたるまで I(12)13
 —萬年までも X(17)1
- 千万 〈名〉
 —のミはひ VII(18)9
- 千萬 〈名〉
 —の御ゆわい事 VIII(7)24
- 千りやう(千両)〈名〉
 —の金を V(17)23
 —の金よりも VIII(34)10
- そ
- そうたち(僧達)〈名〉
 三百人— III(18)1
 ちやうらう—そろて VI(30)9
- そうふきやう(総奉行)〈名〉
 —二人 IX(15)1

- 総奉行 〈名〉
 — なか城おもひ二ら X(2)1
- 僧侶 〈名〉
 国中の— めとも X(7)12
- そむく(背く)〈動〉
 このかきつけ— 人あらは I(16)14
- そめ(染め)〈接辞〉
 かな— はつまき VII(3)4
- そろい(-揃い)〈接辞〉
 せい— III(16)4
- そろて(揃て)〈動+接助〉
 さとぬしへあくかへ— III(10)17
 けらへあくかへ— V(24)26
- 大小の人々— VI(10)25
 — ミはいをかみ申候。 VI(29)10
 ちやうらうそうたち— VI(30)14
 ちはなれ— VII(6)6, VII(16)13
 あんしけす— VII(18)5
 あちけす— VII(30)8
 ちやうらうはうすた— VII(19)14
- そろへ(揃へ)〈動〉
 ちからを— V(16)6
- そんとん(尊敬)〈名〉
 — よりこのかた V(3)16, VII(3)8
- た
- た(-達)〈接辞〉
 あす— VII(37)22
 あむ— VII(37)30
 大やくもい— V(15)6, V(24)11, VI(8)29,
 VI(22)12, VII(15)12, VII(32)26,
 VII(36)19
 ちやうらう— VII(31)19
 はうす— VII(19)12, VII(32)14
- 大-〈接辞〉
 八月— 吉日 V(28)19
 六月— 吉日 VII(33)11
 九月— 吉日 I(18)15, VII(45)17
 — 明 I(18)6, V(28)1, VII(33)1, X(23)3
 — りうきう国 V(3)1
- 代 〈名〉
 二十一— の王の V(4)4
 二十四— のわうの VII(3)23
 千— 萬代なるまでも IX(8)16
 千代萬— なるまでも IX(8)19
- 大小 〈名〉
 — の人々 VI(10)18
 — のゑくかおなこ VII(3)2
- たいへいけう(太平橋)〈名〉
 — たいらはし VII(1)12
- たいり(内裏)〈名〉
 — より V(9)22
- 唐 〈名〉
 — より X(9)6
- たかへ(崇べ)〈動〉
 御— めしよわるもり V(9)7
 御— し申候 V(26)16
 御— めしよわちや事 VII(29)12
- たくし(沢岷)〈名〉
 — の大やくもい III(22)18
- たけ(丈)〈名〉
 — 八十ひろ VI(12)11
- たけ(嶽)〈名〉
 へんの— V(10)15
 くもこ— VI(17)10
 世つき— VI(17)16
 あをりや— VI(18)23
- たしきやくき(だしきや釘)〈名〉
 — つたしよわちへ III(8)2

- ついさしよハちへ VII(14) 2
- たたる(崇る)〈動〉
— へし。 I(17)21, X(18)22
- たち(-達)〈接辞〉
そう— III(18) 3
- たて(建て)〈動〉
— 申候ひのもん II(2)14
このひのもんハ— めしよわちやる。 IX(10) 5
ひのもん御— めされ候。 X(14)18
- たてまつり(奉り)〈補助動〉
あかめ— 候て III(17)17
- たのしむ(楽しむ)〈動〉
よろこひ— 事かきりなし。 V(27)10
- たひら(平良)〈名〉
— のかはら VII(12)10
- たひらおほな(平良大庭)〈名〉
— ハたひらのかはら VII(12) 2
- たひらはし(平良橋)〈名〉
たいへいけう— VIII(1)19
- たひらもり(平良杜)〈名〉
— おしあけもり VII(2) 2
- たほひ〈名〉 ⇨ たほひ
御おもろ御— めしよわちや事 VI(21) 3,
VI(28)27
- たほひ〈名〉 ⇨ たほひ
御せゝる御— めしよわちへ VI(16) 8
- 給り〈動〉
御— 候ほとに X(16)19
- 玉うらおそひ(玉浦襲ひ)〈名〉
— に御ちよわひ VII(25)11
- たまくすく(玉城)〈名〉
— の大やくもい IX(17)11
- たまわり(賜り)〈動〉
御せゝる— 申候。 III(5) 6
おゑか— 申。 VII(39)18
- たみひやくしやう(民百姓)〈名〉
— のため VII(10)12
- ため(為)〈名〉
くにあんしけすの— III(11)21
たみひやくしやうの— VII(10)22
御させの— に III(12) 8
みつかくこの— に III(13)16
とまりのかくこの— に VII(3)19
国のようにの— に VII(24)19
しるへの— に X(14) 7
- 太郎〈名〉
石ふきやうあたにや— X(22)11
- たり〈補助動〉
きようしゆんの御代にに—。 V(8)26
- たるかね(樽金)〈名〉
かうちの大やくもい— VI(39)17
- たるかねもい(樽金思い)〈名〉
— たくしの大やくもい III(22)11
- ち
- ち(地)〈名〉
— にふして I(17)14
- 地〈名〉
— は十八天 III(17) 7
— にふして X(18)15
- ち(来)〈動〉
玉うらおそひに御— よわひ VII(25)20
御— よわいめしよハちゑ VII(28) 7
いつまでも御— よわいめしよわる VII(43)12
御— よわひめしよわに IX(7)23
- ちいへい(指揮)〈名〉
御つかいの— X(9)16
- ちうさんわう(中山王)〈名〉
りうきうこく— しやうねいハ VII(2)14

- 中山王 〈名〉
 大りうきう国—尚清ハ V(3)8
 琉球国—尚清 VII(1)6
 ちかため(地固め)〈名〉
 —のおよハひ VII(19)18
 ちから(力)〈名〉
 —をそろへ V(16)1
 ち金丸(冶金丸)〈名〉
 ミヤこより—ミこしミ玉の II(1)24
 ちきやら(力)〈名〉
 しま世のてや— VII(3)4
 ちはなれ(地離れ)〈名〉
 —そろて VII(5)27, VII(16)7
 -ちへ 〈接辞〉⇨—ちゑ, —て
 -めしよわ—
 あわし— V(22)26
 御のほり— VI(26)23
 御よひ— VII(33)24, VII(38)25
 おれ— III(4)19
 さつけ— V(5)21
 さとり— V(7)8
 つき— V(4)22, VII(4)14
 つけ— VII(7)21
 をれ— V(20)19, VI(15)19, VII(9)19
 -よわ—
 かけ— VII(23)6
 けらゑらし— IX(5)26
 このミ— VII(24)7
 つかし— III(7)27
 つさし— III(8)14
 めし— V(22)12, VI(7)11, VI(15)16,
 VI(20)23, VI(28)6, VI(28)18,
 IX(5)5, IX(6)27, IX(9)21
 わたし— III(7)19, VII(23)14
 -よハ—
 このミ— VII(13)26, VII(14)15
 めし— VII(11)11
 -わ—
 おりあけ— VI(17)24, VI(19)7
 けらへ— VI(20)12, VII(24)14, X(3)5
 つミあけ— VI(18)7, VI(19)15
 ととめ— III(8)27
 とゝめ— VII(14)28
 -ハ—
 おりあけ— VII(12)7
 けらへ— VII(13)18
 つミあけ— VII(12)15
 からめ— VII(6)13
 からめきミ— X(5)10
 つみみ—て VI(13)5
 ちへねん(知念)〈名〉
 —さしきわ III(14)21
 —さしきしもしましり VII(28)2
 -ちや 〈接辞〉
 -めしよわ—
 御すきり—事 X(2)16
 御たかへ—事 VII(29)19
 御ほこり— V(23)9
 てりあかり—事 VII(5)11
 てりあかり—こと IX(3)10
 めしよハ—事 VII(26)6
 めしよわ—事 III(9)27, VI(21)11, VI(29)6
 ちや(門)〈名〉
 いちや—けらへわちへ VI(20)5
 ちやう(門)〈名〉
 すゑつきの御— VI(2)14
 ちやうらう(長老)〈名〉
 —そうたちそろて VI(30)3
 —はうすたそろて VII(19)3
 ちやうらうた(長老達)〈名〉

- くに∟のあちへ——あすたへ VII(3)14
- ちやるく接辞)
- いのりめしよわ——けに VII(15)25, VIII(24)26
- き——ことハ VII(23)3
- たてめしよわ—— IX(10)11
- めしよは——ミせゝるに VIII(19)28
- めしよわ——ミせせるに VII(10)6
- ちやれく接辞)
- くすくつみつけてみおやし——は VII(7)6
- ちよく名)
- 大——もいかなし IX(6)2
- ちよく(強く)く形)
- いくさか——のきちやることハ VII(22)25
- かたくかくこするへし。 VII(42)21
- きよらくけらゑらし IX(5)8
- ちよさ(強さ)く名)
- 御石かききよらさ——あれとも VI(5)12
- ちゑく接辞) ⇨ちへ, -て
- おほりめしよハ—— VIII(27)16
- めしよハ—— VIII(28)15
- をれめしよハ—— VIII(19)15
- つ
- ついさし(突い刺し)く動) ⇨つさし
- たしきやくき——よわちへ VII(14)9
- つかい(遣い)く名) ⇨つかひ, つか井
- ミ御ミ——すれてて X(3)10
- 御ミ——のちいへい X(9)11
- つかし(着かし)く動)
- ま玉はしくにのまたやわたしよわちへ——
よわちへ III(7)22
- つかひ(遣ひ)く名) ⇨つかい, つか井
- ミ御ミ——めしよわちへ V(2)4
- つか井(遣る)く名) ⇨つかい, つかひ
- ミ御ミ——めしよわちへ VI(27)21
- つき(継ぎ)く動)
- 御くらひを——めしよわちへ V(4)16
- 御くらゐを——めしよわちへ VIII(4)8
- 月とく名)
- におゑかをかみ申候。 VI(3)8
- つくり(造り)く動)
- ミち—— III(2)4
- みち—— V(1)18
- ミちを—— V(13)14
- つけ(付け)く動)
- すゑまさるわうにせてて——めしよわちへ
VIII(7)15
- つけ(-付け)く補助)
- くすくつミ——て VII(6)22
- ミちはしつミ——て VIII(16)24
- つさし(突刺し)く動) ⇨ついさし
- たしきやくき——よわちへ III(8)9
- つち(土)く名)
- とろ——ふかさあるけに V(12)17
- とろ——ミつのふかさあるけに VIII(13)2
- つち(頂)く名)
- 世の——に VIII(28)2
- つちのと(己)く名)
- のとりへのへに VII(8)21
- のミのへのへに VIII(18)22
- つませ(積ませ)く動)
- 御石かき——てて VI(7)19
- くすく——てておかて VII(4)10
- つミ(積ミ)く動)
- なけハ二百三十ひろに——みちへて VI(13)2
- 御ちやう御石かき——申候時の VI(2)23
- 御石かき——申候。VI(1)7
- この御石かき——申候あひたハ VI(32)9
- くすく——つけて VII(6)20

くもこたけ世つきたけおりあけわちへ——あ
けわちへ VI(18) 2

あをりやたけおりあけわちへ——あけわちへ
VI(19)10

いしらはましらこはおりあけハちへ——あ
けハちへ VII(12)10

いしらはましらこはおりあけわちへ——あ
けわちへ VIII(22)10

たいらはし——申時のひのもの VIII(1)25

みちはし——つけて VII(16)22

て

て(手?)〈名〉

しま世の——やちきやら VII(31) 2

-て 〈接助〉

ひかしにあたり—— V(10) 9

くすくつませてておか—— VII(4)18

はめさせてゝをか—— VIII(14)25

ミはひおか——あり。 VII(18)19

からめきみちへ—— X(5)12

首里もりまたまもりけらへ—— VI(17) 5

あかめたてまつり候—— III(17)23

あつめ候—— X(4)22

御わたり候——御さ候間 X(9)26

ねかひ申し候——よるもひるも VIII(44) 8

よミ候—— X(11)21

ミ御ミ事をかミ候—— VI(8) 6

千人のさとぬしへあくかへそろ—— III(10)19

けらへあくかへそろ—— V(24)28

大小の人々そろ—— VI(10)27

そろ——ミはいをかみ申候。 VI(29)12

ちやうらうそうたちそろ—— VI(30)16

ちやうらうはうすたそろ—— VII(19)16

ちはなれそろ—— VII(6) 8, VIII(16)15

あんしけすそろ—— VII(18) 7

あちけすそろ—— VIII(30)10

御石かきつませ—— VI(7)22

くすくつみつけ—— VII(6)24

みちはしつミつけ—— VIII(16)26

なけハ二百三十ひろにつみみちへ—— VI(13) 7

まうはら—— VII(15) 7

みよはら——てゝ VII(15)14

よりそふ—— VII(29)23

ちにふし—— I(17)19

地にふし—— X(18)20

かくに—— X(11) 4

ていわう(帝王)〈名〉

もろこしの—— V(8) 7

てた 〈名〉

——かすゑあんしおそひ VIII(6)15

首里——かすゑあんしおそひかなし天の

VIII(9) 3, VIII(42) 3

——かすゑあんしおそい IX(1) 7

ゑその——の御はか IX(4) 4

——かすゑあんしおそいかなしも IX(7) 5

てて 〈接助〉

御ミつかいすれ—— X(3)16

やりよるけに—— IX(4)18

わうにせ——つけめしよわちへ VIII(7)12

てゝ 〈接助〉

けらへわちへ——いのりめしよわちやるけに

VIII(24)16

のこらにしゆる—— IX(9) 9

ミしまよねんみくによねん—— III(9)15

いきや—— VII(24)26

はめさせ——をかて VIII(14)20

みよはらて—— VII(15)15

よせらやい——と VII(16)19

てにつきわうにせ(天継ぎ王にせ)〈名〉

- のあんしおそひかなしの VII(2)4
 てりあかり(照り上がり)〈動〉
 しよりに—めしよわちや事 VII(5)2
 しよりに—めしよわちやこと IX(3)1
 てん(天)〈名〉
 —にあをき I(17)6
 —よりわうの御なをは VIII(6)1
 天 〈名〉
 —より王の御なをは V(4)25
 おきなハの—きや下ハ VII(21)8
 —きやすゑあんしおそひかなしの X(1)6
 —にあふき X(18)8
 —三十三天 III(17)1
 -天 〈接辞〉
 あんしおそひかなし—の VI(1)23, VI(4)17
 あんしおそひかなし—の VIII(42)18
 三十三— III(17)5
 十八— III(17)12
 天下 〈名〉
 —をおさめめしよわる事 V(7)11
 天啓 〈名〉
 —四年 X(6)1
 大明—四年 X(23)5
 天つき(天継ぎ)〈名〉
 首里—のあんしおそひかなし天の VI(4)3
 天つき王にせ(天継ぎ王仁世)〈名〉
 御なをは—とさつけめしよわちへ V(5)6
 —のあんしをそひかなし V(21)1
 —のあんしおそひかなし VI(1)6
 と
 十 〈名〉
 たけハ—ひろ VI(12)15
 -と 〈格助〉
 此くすく—ミつのかくこのために III(13)7
 御なをは天つき王にせ—さつけめしよわちへ V(5)12
 へんのたけ—といふ。 V(10)17
 ともゝととひやくさ—ミはいをかミ申候。
 VI(34)30
 まつをうへれ—の御ミ事をかミ V(13)25
 あにあれは— IX(8)13
 からめくへし—ミ御ミ事おかみ申候。
 IX(12)16
 と 〈副助〉
 せいくさよせらやいてゝ— ……おかみめしよはる。 VII(16)21
 御さうせめしよわちへ—このひのもんハたてめしよわちやる。 X(9)23
 時 〈名〉
 まうはらいの—に III(4)29
 まうはらへの—に VI(15)29
 いよことのあら—や VII(25)11
 あめふる—ハ V(12)11
 雨ふる—ハ VIII(12)24
 たいらはしつミ申—のひのもん VIII(1)29
 御ちやう御石かきつみ申候—のひのもん
 VI(2)28
 はしわたし申候—のひのもん III(2)17
 ち金丸ミこしミ玉のわたり申候—にたて申候ひのもん II(2)11
 —大明天啓四年 X(23)2
 と(年)〈名〉
 ともゝ—とひやくさと VI(34)23
 ところ(所)〈名〉
 この—に I(13)9
 御あそひめしよわる— V(12)1
 とし(年)〈名〉
 ミつのへむまの— III(3)13

- 年〈名〉
 ひのへむまの—— VI(14)14
- ととめ(留め)〈動〉
 あさかかね——わちへ III(8)23
- とゝめ(留め)〈動〉
 あさかかね——ハちへ VII(14)24
- とひやく(十百)〈名〉
 ともゝと——さと VI(34)25
- とまり(泊)〈名〉
 —のかくこのために VII(3)9
- とむらひ(弔ひ)〈名〉
 御——にいろいろのかさり物をすゑ X(10)7
- とも(-共)〈接辞〉
 おひ人わか人め——わらへにいたるまで
 V(25)20
 僧侶め——わらへのいふにおよひ申さす。
 X(7)6
- とも〈接助〉
 きよらさちよさあれ—— VI(5)18
 なきやものやれ—— VII(23)19
- ともに(共に)〈副〉
 下しましり——かきのはなちにせいそろい
 III(15)18
 しま——ミはいをかみ申候。 VI(24)5
 大小のゑくかおなこ——御よひめしよわちへ
 VII(38)14
- ともに(共に)〈副〉
 御くら—— VI(13)14
- ともゝ(十百)〈名〉
 —ととひやくさと VI(34)20
 —すゑ VII(16)2
- とよみくすく(豊見城)〈名〉
 —のあんし I(9)6
 —の大やくもい IX(14)7
 とよみくすく(鳴響み城)〈名〉
 —のあんし I(9)6
 —の大やくもい IX(14)7
- とよみくすく(鳴響み城)〈名〉
 ねたてひかわ又—— III(12)21
- とよみ城(豊見城)〈名〉
 —の大やくもい VII(48)4
- とよみもり(鳴響み杜)〈名〉
 —よそいもり III(6)2
- とり(酉)〈名〉
 きのとの——のへに III(3)25
 つちのとの——のへに VII(8)26
 ひのとの—— V(19)26, VII(18)13, VII(45)12
 ミつとの——のへに VI(14)25
- とろ(泥)〈名〉
 —つちふかさあるけに V(12)14
 —つちミつのふかさあるけに VII(12)27
- な
- な(名)〈名〉
 王の御——をは V(5)2
 わうの御——をは VII(6)11
 御——ハのこらに IX(8)28
- な(庭)〈名〉
 たひらなほ——ハ VII(12)7
- なか城(中城)〈名〉
 —おもひ二ら X(21)5
- 中くすく(中城)〈名〉
 —のあんし I(5)6
- なから〈接助〉
 むまれ——むかしいまのことを V(6)16
- なき(無き)〈形〉
 きちやることハ——やもの VII(23)11
- なけ(長)〈名〉
 —ハ二百三十ひろに VI(12)19

- なこ(名護)〈名〉
 —の大やくもい VII(49) 4
- なし(無し)〈形〉
 かきり— V(6) 4, V(27)20
- なは(那覇)〈名〉
 —のはん VII(26)23
- なら(成ら)〈動〉
 あさく—はほるへし。 IX(18)12
- なる(成る)〈動〉
 千代萬代—までも IX(8)21
- なを(猶)〈副〉
 金よりも—まさりの VII(34)21
- に
- に(似)〈動〉
 きようしゆんの御代に—たり。 V(8)25
- に 〈助動〉
 ひとへ—ありたるけに
 かく—て X(11) 3
- 二百 〈名〉
 なけハ—三十ひろに VI(12)23
- に 〈格助〉
 (時)
 千年万年—いたるまで I(12)18
 のち— I(14)11
 御代— II(1)16
 わたり申候時— II(2)12
 まうはらいの時— III(4)30
 まうはらへの時— VI(15)30
 きのとのとりのへ— III(3)29
 ひのとのとりのへ— V(19)30
 ひのとのみのへ— VI(25)15
 ひのとのゐのへ— X(6)21
 ミつとのとりのへ— VI(14)29
 つちのとのとりのへ— VII(8)30
- つちのとのみのへ— VII(18)30
 月と—おゑかをかみ申候。 VI(33)10
 十二月三十日—しるし申候。 VI(36)22
 ほん正月まゑ— IX(12) 3
 一七日のうち—からめきみちへ X(5) 3
 昔今—も X(13)12
 (場所)
 このところ—おさまるへし。 I(13)12
 くもことまり—ま玉はしくにのまたやわた
 しよわちへ III(6)26
 一すしのみち—千りやうの金を V(17)21
 みち—いしはめさせて、 VII(14)12
 やらさもりのほか—くすくつませてて
 VII(14) 4
- めしよわちやるミせせる— VII(10)14
 めしよはちやるみせゝる— VII(20) 6
 (対象)
 ち—ふして I(17)15
 地—ふして X(18)16
 てん—あふき I(17) 8
 天—あふき X(18) 9
 きようしゆんの御代—にたり。 V(8)23
 ミおほけ—あひ申候。 V(18) 8, VII(35) 6
 御五人—御給り候ほどに X(16)16
 御すしよりほか—あんしもけすも入事あら
 は X(17)19
 (原因)
 ミ御ミ事—, ま玉ミなどのみちつくり
 III(1)22
 世の御さうけのため—, ねたてひかわ又と
 よミくすく III(12)10
 国王の御ミ事—, ミちをつくり V(13) 8
 あんしおそいかなし天のミ御ミ事—, すゑ
 つきの御ちやう VI(2) 5
 首里天のミ御ミ事—たいへいけうたいらは

しつミ申時の VIII(1)10

VIII(28) 4

(理由)

てたかすゑあんしおそいかなしも御ちよわひ
めしよわ——、あにあればと IX(8) 5ミ御ミ事をかミ申候ほと——、石のさいくあ
つめ候て X(4) 9かにある事は昔今にもあるましく候ほと——、
末代のしるへのために X(13)23御五人に御給り候ほと——、千年萬年までも
………入事あらは X(16)24

(目的)

みつかくこのため——、一はんのさとぬしへ
III(13)18とまりかくこのため——、やらさもりのほか
にくすくつませてて VII(3)21国のようしのため——、いきやて、 VII(24)21
しるへのため——ひのもん御たてめされ候。

X(14) 9

御なハのこら——しゆるてて IX(9) 4

御とむらひ——いろいろのかさり物をすゑ

X(10)11

(結果)

こころ——あわせ V(15)26

なけハ二百三十ひろ——つみみちへて

VI(12)29

(帰着点)

わらへ——いたるまで V(25)26

かきのはなち——せいそろい III(15)28

やらさもりくすく——よりそふて VII(29)17

しより——てりあかりめし

よわちや事 VII(4)28

しより——てりあかりめしよわちやこと

IX(2)20

玉うらおそひ——御ちよわひ VII(25)17

世のつち——御ちよわいめしよハちゑ

(方角)

ひかり——あたりて V(10) 4

(比況)

ねいしまいしはや——いつまでも御ちよわい

VIII(43) 3

-に 〈接助〉

いふ——およひ申さす。 X(7)26

二十一代 〈名〉

——の王の V(4) 1

二十二年 〈名〉

嘉靖—— V(19) 3

大明嘉靖—— V(28) 5

二十四日 〈名〉

六月—— V(19)17

二十四代 〈名〉

——のわうの VIII(3)20

二十五年 〈名〉

嘉靖—— VI(14) 3, VI(36) 5

萬曆—— VII(18) 4, VIII(45) 3

-日 〈接辞〉

六月二十四—— V(19)20

八月十二—— VIII(18)20

九月大吉—— I(18)17, VII(45)19

九月三—— VI(25) 6

十二月三十——に VI(36)21

一七——のうちに X(4)26

二人 〈名〉

ふきやう—— VII(50) 8

そうふきやう—— IX(15) 8

-にて 〈格助〉

くま——むらからおれるへし。 IV(1)12

にるやの大ぬし(にるやの大主)〈名〉

——きみ \searrow の VI(26) 1

-人 〈接辞〉

三百——そうたち III(17)27
 三——の世あすたへ III(19)17
 世あすたへ三—— V(29)9, VI(37)11
 奉行三—— VI(41)8
 ふきやう二—— VII(50)9
 そうふきやう二—— IX(15)9
 ゑくか御五—— X(16)15

ぬ ナシ

ね

子〈名〉

甲—— X(6)7, X(23)12

-ね〈格助〉

ミしまよ——ん III(9)6, VII(12)22, VII(23)21

みくによ——ん III(9)13

おくのよ——ん VII(12)29

ねいし(根石)〈名〉

——まいしのやに VII(31)9, VIII(42)21

ねかひ(願ひ)〈動〉

御かほう——申し候て VII(44)2

ねかひ事(願ひ事)〈名〉

——かなひ V(26)24

ねたて(根立て)〈名〉

御石かきの——のふかさハ VI(11)18

ねたてひかわ(根立て樋川)〈名〉

——又とよミくすく III(12)12

——のミつのかくこハ VII(40)17

-年〈接辞〉

大明弘治十四—— I(18)12

嘉靖二十二—— V(19)6

大明嘉靖二十二—— V(28)8

嘉靖二十五—— VI(14)6, VI(36)8

嘉靖三十二—— VII(8)6

嘉靖三十三—— VII(33)8

萬曆二十五—— VII(18)7, VII(45)6

萬曆四十八—— IX(19)7

天啓四—— X(6)4, X(23)8

千——万年にいたるまで I(12)14

千——萬年までも X(17)2

千年万——にいたるまで I(12)17

千年萬——までも X(17)4

の

-の〈格助〉

(主格)

あんしおそひかなし天——……御ちよわいめ
しよわる VII(42)19

いくさかちよく——きちやることハ VII(22)25

いよこと——あら時や VII(25)6

御せち——ミまふりめしよハるけに VII(21)26

おやかなし——御すきりめしよわちや事

X(2)6

御世——御さうせめしよわちへ VI(6)30

御世——御さうせめしよハちへ VII(10)27

かみほとけ——御あそひめしよわる V(11)18

かミほとけ——をれめしよハちゑ VII(19)7

きこゑ大きききみ \searrow ——おれめしよわちへ

III(4)11

きこゑ大きききみ \searrow ——をれめしよわちへ

V(20)11, VI(15)11

きこゑ大きききみ \searrow ——をれめしよわちへ

VII(9)11

代の官人——さいもんよミ候て X(11)11

このすミ——あさくならば IX(18)6

首里天つきのあんしおそひかなし——ともゝ

ととひやくさと VI(34)18

にるやの大ぬしきみ \searrow ——御のほりめしよ

わちへ VI(26)13

みつ— ふかさあるけに VII(13)7

はへおもて— ひとへにありたるけに
VI(6)10

ミこしミ玉— わたり申候 II(2)3

わうかなし— おほこりめしよハちゑ
VII(27)6

(所有格)

— あんし

きこゑ大きみ— I(3)12

きん— I(8)8

こゑく— I(7)9

さすかさ— I(4)10

とよみくすく— I(9)12

中くすく— I(5)10

みやきせん— I(6)11

— 大やくもい

あはこん— IX(15)15

いけくすく— IX(13)15

うちま— VII(36)7

大きと— V(30)6

おろく— VII(41)12

かうち— III(21)20, VI(39)9

かつれん— VII(39)8

かなくすく— VII(42)6

かなは— VI(38)9

かハかミ— VII(52)8

きすゝ— V(31)6

きま— VII(41)22

くすくま— VII(35)8, VII(51)8

くにかみ— III(20)21, VI(40)10

くにかミ— VII(47)8

こちひら— VII(37)8, IX(15)27

たくし— III(22)21

たまくすく— IX(17)16

とよみくすく— IX(14)13

とよミ城— VII(48)8

なこ— VII(49)6

花くすく— V(34)7

みや平— V(32)6

よむたもさ— IX(13)28

— ため

御さうせ— に III(12)6

みつかくこ— に VII(31)17

くにあんしけす— III(11)19

たミひやくしやう— VII(10)20

しるへ— に X(14)4

国のようし— に VII(24)17

あんしおそいかなし— おなこのおやかなしの X(1)21

あんしおそしかなし天— ミ御ミ事に
VI(1)24, VI(4)18

あんしおそひかなし— ミ御ミ事 VII(2)23

あんしおそひかなし天— ミ御ミ事 VIII(9)19

石— さいく X(4)12

— はん— さとぬしへ III(13)23

— はん— せい VII(25)26, VII(26)17, VII(27)5

いろいろ— かさり物を X(10)17

うちほか— 御いへひのかみ VII(28)28

まつをうへれと— 御ミ事 V(13)26

うらおそい— ようとれは IX(3)20

おらおそひ— 御くすく世の VII(27)24

うらおそひまきり— 大やくもいた VII(36)12

御石かき— ねたてのふかさハ VI(11)16

御石かき— 御くやうの VI(30)22

おきなハ— 天きや下ハ VII(21)6

おきなハ— 天か下の VII(40)10

おきやかもいかなし天— ミ御ミ事に
III(1)16

おく— ミよ III(6)16

御くすく— 御石かき VI(4)29

- 御くすく——こしあて VI(5)25
 御くすく——うちほかの VIII(28)22
 御くやう——御ゆわひ VI(30)28
 御つかい——ちいへい X(9)14
 おなこ——おやかなしの X(1)26
 御はか——さうちは IX(11)7
 大あんしおしられ——おもひくわへ X(15)19
 御世——おさうせ VII(24)4
 かミしも——あんしけす VII(17)25
 きこゑ大きみ——あんし I(3)12
 きこゑ大きみ——御せちの VII(21)21
 きのと——とりのへに III(3)24, III(3)27
 きようしゆん——御代に V(8)19
 くに——またや III(7)9
 くに——あんしけす III(11)11
 くに——あちけすたミひやくしやうの
 VII(10)4
 くに——またや VIII(23)26
 くに——あむた VIII(37)26
 国——またや VII(13)9
 国——ようし VII(3)3, VII(24)12
 くに——あんしへ V(14)14, V(23)24,
 VI(8)12, VI(12)26, VII(4)24
 くに——あちへ VII(31)8
 國中——僧侶 X(7)10
 国王——御ミ事に V(13)3
 三人——世あすたへ III(19)18
 一七日——うちに X(4)27
 しま——あすた VIII(37)18
 しま世——てやちきわら VII(30)28
 しもしましりきやめ——せいや VII(28)20
 しやな——里主 VI(42)9
 しより——御ミ事 I(11)9
 首里——御世の VI(6)26
 首里——王 III(1)3, VI(1)3, X(1)3
 首里おきやかもいかなし——御代に II(1)12
 しより御城——御まふり VII(26)7
 首里天——御ミ事 V(1)4
 首里天——ミ御ミ事に VIII(1)4
 首里天つき——あんしおそひかなし VI(27)6
 首里天つき——あんしおそいかなし天の
 VI(4)6
 首里天つき——あんしおそひかなし天の
 VI(34)6
 此すミ——ことはハ III(19)9
 すゑつき——御ちやう VI(2)11
 すゑつき——ミ物 VI(19)22
 千人——さとぬしへあくかへ III(10)4
 千萬——ミはひ VII(18)11
 千萬——御ゆわい事 VIII(7)26
 千りやう——金 V(17)27, VII(34)14
 大小——人々 VI(10)20
 大小——ゑくかおなこ VII(38)4
 たひら——かはら VIII(12)13
 ちかため——およハひ VII(19)22
 つちのと——とりのへに VII(8)25
 つちのとのとり——へに VII(8)28
 つちのと——ミのへに VIII(18)26
 つちのとのミ——へに VIII(18)28
 てにつきわうにせ——あんしおそひかなしの
 VII(2)12
 天か下——あちけす VIII(40)15
 天つき王にせ——あんしをそひかなし
 V(2)7
 天つき王にせ——あんしおそいかなし
 VI(1)12
 つミ申候時——ひのもん VI(2)29
 つミ申時——ひのもん VIII(1)30
 はしわたし申候時——ひのもん III(2)18
 とまり——かくこのために VII(3)12

- なは—はん VII(26)25
 二十一代—王の V(4)5
 二十四代—わうの VIII(3)24
 なるや—大ぬしきみ \searrow の VI(26)4
 ねいしまいし—やに VII(31)16, VIII(42)28
 御石かきのねたて—ふかさハ VI(11)21
 ねたてひかわ—ミつの VII(40)23
 はしくやう—御ゆわい III(18)11
 花くすく—里主 VI(43)10
 ひ—かミ VIII(29)7
 ひ—もん II(2)20, III(2)21, V(2)2, VI(3)2, VII(2)2, IX(9)29, X(14)12
 一すし—ミち V(17)17
 ひのと—とり V(19)25, VII(18)12, VII(45)11
 ひのと—ミのへに VI(25)11
 ひのとのミ—へに VI(25)13
 ひのと—ゐのへに X(6)17
 ひのとのゐ—へに X(6)19
 ひのへぬま—年 VI(14)13
 日と—ミ御ほけハ VI(32)21
 まうはらい—時に III(4)27
 まうはらへ—時に VI(15)27
 まさり—ミおほけに VII(34)27
 ま玉ミなど—ミちつくり III(1)29
 末代—しるへのために X(13)27
 まふに—里主 VI(44)9
 ミいくに—御はか X(2)24
 ミつ—かくこ III(13)11, VII(40)27
 ミつのと—う V(19)12, V(28)14
 みつのと—うし VII(8)12
 ミつのととり—へに VI(14)27
 ミつのへむま—とし III(3)12
 みはん—さとぬしへ VII(5)5
 ミはん—大やくもいた VI(8)22, VII(15)5, VIII(32)19
 ミはん—御ま入 VII(25)17
 ミやこやへま おゑか人 VI(10)11, VI(23)20
 むかしいま—事を V(6)25
 もろこし—ていわう V(8)5
 やらさもり—ほかに VII(3)28
 やらさもりくすく—かくこ VII(40)9
 世—御さうせ III(11)27
 世—こしあて VI(18)11
 おらおそひの御くすく世—つちに VIII(27)30
 代—官人の X(11)7
 よそひおとん—大あんし I(2)12
 二十四代のわう—御くらゐを VIII(3)28
 わう—御なをは VIII(6)8
 王—御くらひ V(4)8
 王—御なをは V(6)30
 わらへ—いふにおよひ申さす。 X(7)22
 ゑそのてた—御はか K(4)6
 (同格)
 ゑそ—てたの御はか K(4)3
 のころ(残ら)〈動〉
 御なハ—にしゆるてて IX(9)1
 のち(後)〈名〉
 —にあらそふ人あらは I(14)9
 のほり(上り)〈動〉
 なるやの大ぬしきみ \searrow の御—めしよわちへ VI(26)16
 のろへ(ノロ部)〈名〉
 あくかへおゑか人—しまのあすた VIII(37)12
 は
 -は 〈副助〉
 いしらこ—ましらこは VII(11)18, VII(21)19
 御はかところ— X(15)9
 かにある事— X(13)8

- いしらはましろこ — VII(11)24, VII(21)25
うらおそいのようにとれ — IX(3)26
- ハ 〈副助〉
あと — てたかすゑあんしおそいかなしも IX(7) 3
- つみ申候あひた — VI(32)17
あつさ — 五ひろ VI(12) 5
御いちやわり — VII(34) 8
御な — のこらに IX(8)29
たひらおほな — VII(12) 8
おもひ事 — VII(41)17
ミつのかくこ — VII(41) 4
きちやること — なきやもの VII(23) 9
此すミのことは — III(19)14
さうち — K(11)12
これ — V(10)24
中山王尚清 — V(3)14
しやうねい — VII(3) 6
天きや下 — VI(21)13
たけ — 十ひろ VI(12)13
地 — 十八天 III(17) 8
あめふる時 — V(12)13
雨ふる時 — VII(12)25
なけ — 二百三十ひろに VI(12)21
このはし — III(11) 7
このひのもん — たてめしよわちやる。 IX(10) 3
- 御石かきのねたてのふかさ — VI(11)26
ミち — きよらく V(16)28
まつ — すゝし V(17) 8
日とのミ御ほけ — かすしらす VI(32)27
ミおほけ — VII(39) 6
み御ミ事 — VII(30)23
みはい — VI(33)25
王かなし — V(6)11
- は 〈副助〉
王の御なを — V(5) 4
わうの御なを — VII(6)13
- は 〈接助〉
人あら — I(14)22, I(16)22
入事あら — X(18) 6
あにあれ — IX(8)12, X(7) 6
あさくなら — ほるへし。 IX(18)14
くすくつみつけてみおやしちやれ — VII(7) 9
- ハ 〈接助〉
まつをうへれ — V(16)24
ミおやしたれ — VII(17) 8
- はい(拝)〈名〉
み — ハ VI(33)23
ミ — おかみ申候。 VII(30)13
ミ — をかミ申候 V(25) 2, VI(24)10, VI(29)15, VI(35) 2, VII(44)19
ミ — おきなハの VII(40) 3
ミ — からめき申候 X(11)24
御 — おかミ申候。 III(10)22
- はうすた(坊主達)〈名〉
ちやうらう — そろて VII(19) 9
かなそめはつまき — ミはんの大やくもいた VII(32)11
- はか(墓)〈名〉
御 — やりよるけにてて IX(4) 9
この御 — の IX(11) 5
ミいくに御 — けらへわちへ X(2)25
- はかところ(墓所)〈名〉
此御 — は X(15) 4
- はし(橋)〈名〉
— わたし申候 III(2) 8
この — ハ III(11) 5
— かけさせ VII(13)18

- ミち—つみつけて VII(16)19
 -はし(-橋)〈接辞〉
 くもこ— VIII(22)21
 たひら— VII(1)22
 ま玉— III(7)4, III(15)4
 ミ物— VIII(22)26
 はしくやう(橋供養)〈名〉
 —の御ゆわい III(18)6
 八月 〈名〉
 —大吉日 V(28)17
 —一日 VI(14)16
 —十二日 VIII(18)16
 —吉日 IX(19)15
 -ハちへ 〈補助動〉 ⇨わちへ
 おりあけ— VII(12)6
 けらへ— VII(13)17
 つみあけ— VII(12)14
 とゝめ— VI(14)27
 はつまき(鉢巻)〈名〉
 かなそめ— VIII(32)6
 花くすく(花城)〈名〉
 —の大やくもい V(34)3
 —の里主 VI(43)6
 はひ(拜)〈名〉 ⇨はい
 ミ—おかみめしよはる。 VII(17)9
 ミ—おかてあり。 VII(18)14
 はへおもて(南風表)〈名〉
 —のひとへにありたるけに VI(6)5
 はへはら(南風原)〈名〉 ⇨はゑはら
 —しまおそい大さと III(14)7
 はめ(嵌め)〈動〉
 いしを— V(16)14
 いし—させて、 VIII(14)17
 はら(払)〈動〉
 まう—て VII(15)5
 みよ—てて、 VII(15)12
 -はらい(-祓い)〈接辞〉 ⇨はらひ, はらへ
 まう—の時に III(4)24
 -はらひ(-祓ひ)〈接辞〉 ⇨はらい, はらへ
 まう—めしよはちやるミせゝるに VIII(19)20
 まう—めしよわちやるミせせるに VII(9)24
 -はらへ(-祓へ)〈接辞〉 ⇨はらい, はらひ
 まう—の時に VI(15)24
 はゑはら(南風原)〈名〉 ⇨はへはら
 —しまおそい大さと VII(27)12
 はん(番)〈名〉
 なはの— VII(26)27
 -はん(-一番)〈接辞〉
 —のさとぬしへ III(13)21
 ミ—の大やくもいた VI(8)20

 ひ

 ひ(火)〈名〉
 —のかミ VIII(29)6
 ひ(碑)〈名〉
 —のもの II(2)19, III(2)20, V(2)1, VI(2)1, VII(2)1, IX(9)28, X(14)11
 ひかし(東)〈名〉
 —にあたりて V(10)1
 ひかわ(樋川)〈名〉
 ねたて— III(12)15, VII(40)20
 人 〈名〉
 あらそふ—あらは I(14)18
 そむく—あらは I(16)18
 -すし(-筋)〈名〉
 —のミち V(17)14
 — 〈名〉
 こころ—にあわせ V(15)25
 人々 〈名〉

- ミおほけにあひ申候。 V(18) 1
 大小の—そろて VI(10)22
 ひとへ(一重)〈名〉
 —にありたるけに VI(6)12
 ひのかみ(火の神)〈名〉
 御いへ—御たかへめしよわちや事 VII(29) 6
 ひのと(丁)〈名〉
 —のとり V(19)22, VII(18) 9, VII(45) 8
 —のミのへに VI(25) 8
 —のゐのへに X(6)14
 ひのへ(丙)〈名〉
 —むま VI(14) 8, VI(35)10
 日と 〈名〉
 —のミ御ほけハ VI(32)19
 ひやく(百)〈名〉
 ともゝとと—さと VI(34)26
 百 〈名〉
 三—人 III(17)26
 二—三十ひろに VI(12)24
 ひやくしやう(百姓)〈名〉
 たミ—のため VII(10)14
 ひる(昼)〈名〉
 よるも—も V(25)11, VII(44)14
 -ひろ(-尋)〈接辞〉
 あつさハ五— VI(12) 8
 たけハ十— VI(12)16
 ねたてのふかさは二— VI(11)29
 なけハ二百三十—に VI(12)27
 ふ
 ふかさ(深さ)〈名〉
 ところつち—あるけに V(12)20
 御石かきのねたての—ハ VI(11)23
 ミつの—あるけに VII(13) 9
 ふきやう(奉行)〈名〉
 —一人 VII(38) 2
 —二人 VII(50) 3
 いし— IX(17) 3
 石— X(22) 2
 そう—二人 VII(50) 3
 奉行 〈名〉
 —一人 V(33) 2
 —三人 VI(41) 4
 総— X(21) 2
 ふし(伏し)〈動〉
 ちに—て I(17) 7
 地に—て X(18)18
 二ひろ(二尋)〈名〉
 ふかさハ— VI(11)28
 冬 〈名〉
 —十月 X(23)13
 ふる(降る)〈動〉
 あめ—時ハ V(12) 8
 雨—時ハ VII(12)21
 へ
 へ(日)〈名〉
 きのとのとり—に III(3)28
 つちのとのとり—に VII(8)29
 つちのとのミ—に VII(18)29
 ひのとのとり—に V(19)29
 ひのとのミ—に VI(25)14
 ひのとのゐ—に X(6)20
 ミつのとのとり—に VI(14)28
 -へ(-部)〈接辞〉
 あすた— V(14)24, V(24) 4, VII(31)24
 あち— VII(31)12
 あんし— V(14)19, V(23)29, VI(8)17, VI(22)

- 5, VII(4)29
おもひくわ—— V(23)18, VI(21)21, X(15)26
さとぬし—— III(10)10, III(13)29, VII(5)11, VII
(15)18, VII(33)6, VII(36)25
里ぬし—— VI(9)5
里主—— V(15)10, V(24)15, VI(22)16
のろ—— VII(37)14
世あすた—— III(19)24, V(29)6, VI(37)8, VII
(34)6, VII(46)7, IX(13)5, X(19)
5
へし 〈助動〉
おさまる——。 I(13)18
おれる——。 IV(1)23
かくこする——。 VII(43)7
きよらくからめく——と IX(12)14
たたる——。 I(17)24, X(18)25
見る——。 I(15)14
ほる——。 IX(18)18
へんのたけ(弁の嶽)〈名〉
たいりよりひかしにあたりて——といふ。
V(10)11
ほ
ほか(外)〈名〉
やらさもりの——に VII(4)2
うち——の御いへひのかみ VII(28)26
御すしより——に X(17)17
ほけ 〈名〉
ミお——にあひ申候。 V(18)6, VII(35)4
ミお——ハ VII(39)4
日々のミ御——ハかすしらす VI(32)25
ほこり(慶り)〈動〉
御——めしよわちや事 V(23)2
お——めしよハちゑ VII(27)9
ほと(程)〈副助〉
あるましく候——に X(13)21
御給り候——に X(16)22
をかミ申候——に X(4)7
ほとけ(仏)〈名〉
かミ——の御あそひめしよわるところ
V(11)15
かみ——のをれめしよハちゑ VII(19)4
ほる(彫る)〈動〉
このすみのあさくならは——へし。 IX(18)16
ほん(盆)〈名〉
——正月まゑに IX(11)25
ま
まあかとたる(真加戸樽)〈名〉
首里おきやかもひかなし—— I(1)13
まいくさ(真伊久佐)〈名〉
くすくまの大やくもい—— VII(35)16
まいくさかね(真伊久佐金)〈名〉
みや平の大やくもい—— V(32)14
まいし(真石)〈名〉
ねいし——のやに VII(31)13, VII(42)25
まう(毛)〈名〉
——はらいの時に III(4)24
——はらひめしよわちやるミせせるに
VII(9)22
——はらひめしよはちやるミせゝるに
VII(19)20
——はらへの時に VI(15)22
——はらて VII(15)2
申さ 〈補動〉
いふにおよひ——す。 X(8)4
まうし(真牛)〈名〉
こちひらの大やくもい—— VII(37)16

- とよミ城の大やくもい — VII(48)16
- 申し 〈補助〉
ねかひ — 候て VIII(44)5
- 申し 〈動〉
はしくやうの御ゆわい — 候 III(18)18
御ゆわひ — 候。 VI(31)6
- 申し 〈補助〉
ミおほけにあひ — 候。 V(18)12, VII(35)10
まつうへ — 候ひのもの V(1)27
ミはいおかみ —。 VII(30)19
ミ御ミ事おかみ —。 IX(12)26
御はいおかみ — 候。 III(10)28
ミはいからめき — 候。 X(12)5
御くうとのけらへ — 候。 VI(13)19
御おくりし — 候。 X(6)28
御たかへし — 候。 V(26)21
十二月三十日にしるし — 候。 VI(36)27
たて — 候ひのもの II(2)16
御せゝるたまわり — 候。 III(5)10
御石かきつみ — 候時のひのもの VI(2)25
御石かきつみ — 候。 VI(1)9
御石かきつみ — 候あひたハ VI(32)11
はしわたし — 候時のひのもの III(2)14
ち金丸ミこしミ玉のわたり — 候時に
II(2)8
ミはいをかみ — 候。 VI(24)16, VI(29)21,
VI(35)8
おゑかをかみ — 候 VI(33)19
ミはいをかみ — 候。 V(25)8, VII(44)25
ミ御ミ事をかみ — 候ほとに X(4)4
首里天の御ミ事をかみ —、みちつくり
V(1)13
- 申し 〈補助〉
たいらはしつミ — 時のひのもの VIII(1)27
- 申し 〈補助〉
おゑかたまわり —。 ミはいおきなハの
VIII(39)22
- まうし(真牛)〈名〉
とよミ城の大やくもい — VIII(8)16
- まうしかね(真牛金)〈名〉
— かうちの大やくもい III(21)11
- まうはらい(毛祓い)〈名〉
— の時に III(4)22
- まうはらひ(毛祓ひ)〈名〉
— めしよはちやるミせゝるに VII(19)18
— めしよわちやるミせせるに VII(9)22
- まうはらへ(毛祓へ)〈名〉
— の時に VI(15)22
- まかねたる(真金樽)〈名〉
— くにかみの大やくもい III(20)11
- まきり(間切)〈名〉
うらおそい — より IX(11)19
うらおそひ — の VII(36)9
- ま五ら(真五良)〈名〉
花くすくの大やくもい — V(34)15
しやなの里主 — VI(42)14
くにかみの大やくもい — VII(47)16
- まさかひ(真栄)〈名〉
花くすくの里主 — VI(43)15
- まさふろ(真三郎)〈名〉
国かみ — X(19)24
- まかふろかね(真三郎金)〈名〉
こゑくのあんし — I(7)15
きんのあんし — I(8)14
- まさり(勝り)〈名〉
なを — のミおほけに VIII(34)24
- まさる(勝る)〈動〉
すゑ — わうにせてて VII(7)4
すへ — 王にせかなしは IX(1)22
- ま三ら(真三良)〈名〉

- まふにの里主—— VI(44)14
- ましく(助動)
- いきよく—— VII(32)6
- くるく—— VII(32)12
- ましく〈助動〉
- ある——候ほとに X(13)17
- ましらこ(真石子)〈名〉
- いしらこは——は VII(11)20, VIII(21)21
- 又〈副〉
- III(11)24, III(12)19, VI(9)24, VI(25)1, VI(30)1, VII(19)1, VII(27)10, VII(40)15, VIII(31)2, VIII(36)2
- ま玉橋(真玉橋)〈名〉
- くにのまたやわたしよわちへ III(7)2
- をわたり III(15)2
- ま玉みなと(真玉湊)〈名〉
- のミちつくり III(1)24
- またまもり(真玉杜)〈名〉
- 首里もり——けらへて VI(16)24
- また〈名〉
- くにの——や III(7)10
- またる(真樽)〈名〉
- なこの大やくもい—— VIII(49)14
- くすくまの大やくもい—— VIII(51)16
- かほかミの大やくもい—— VIII(52)16
- まつ(松)〈名〉
- うへ申候ひのもん V(1)22
- をうへれとの V(13)18
- をうへれば V(16)17
- ハすゝし。 V(17)6
- 末代〈名〉
- のしるへのために X(13)25
- まで〈副助〉
- いたる—— I(12)23, V(26)4
- なる——も IX(8)23
- いつ——も VIII(43)7
- きほくひり—— VII(14)7
- 千年萬年——も X(17)5
- おなこわらへ——も VIII(41)9
- まで〈名〉
- 国の——や VII(13)10
- くにの——や VIII(23)27
- まとく(真徳)〈名〉
- うちまの大やくもい—— VII(36)15
- まなへたる(真鍋樽)〈名〉
- さすかさのあんし—— I(4)16
- まにきよたる(真仁堯樽)〈名〉
- 中くすくのあんし—— I(5)16
- まによこ(真如古)〈名〉
- くしかミ—— X(19)15
- ま入(真人)〈名〉
- ミはんの御—— VII(25)20
- まふとう(真布度)〈名〉
- かつれんの大やくもい—— VII(39)16
- まふとかね(真布度金)〈名〉
- 大さとの大やくもい—— V(30)14
- まふに(摩文仁)〈名〉
- 一の里主 VI(44)6
- まふり(守り)〈動〉
- 御せちのミ——めしよるけに VII(22)3
- まふり(守り)〈名〉
- しより御城の御—— VII(26)10
- まもたいかね(真武体金)〈名〉
- みやきせんのあんし—— I(6)17
- まゑ(前)〈名〉
- ほん正月——に IX(12)1
- 萬〈名〉
- 千——のミはひ VII(18)10
- 千——の御ゆわい事 VIII(7)25
- 萬代〈名〉
- 千代——なるまでも IX(8)18

万年 〈名〉

千年——にいたるまで I(12)16

萬年 〈名〉

千年——までも X(17)3

萬曆 〈名〉

——二十五年 VII(18)2, VIII(45)1

——四十八年 IX(19)2

み

ミ(巳) 〈名〉

ひのとのおの——のへに VI(25)12

つちのとのおの——のへに VIII(18)27

み-(御-) 〈接辞〉

——御ミ事ハ VII(30)19

——くによねん III(9)9

——はいハ VI(33)22

——よはらて VII(15)9

ミ-(御-) 〈接辞〉

——おほけ

——にあひ申候。 V(18)4, VIII(35)2

——ハ VIII(39)2

——御ほけ

日との——ハ VI(32)23

——御ミ事

おきやかもいかなし天の——に III(1)18

あんしおそいかなし天の——に VI(2)1

あんしおそいかなし天の—— VI(4)20

あんしおそひかなしの—— VII(2)25

あんしおそひかなし天の—— VIII(9)21

首里天の——に VIII(1)6

——をかミ候て VI(7)25

——おかみ申候。 IX(12)18

——をかミ申候ほとに X(3)19

御——つかい

——すれてて X(3)9

——御ミつかい

——めしよわちへ IX(6)16

——御ミつかひ

——めしよわちへ V(22)1

——御ミつか井

——めしよわちへ VI(27)18

——おやたいり

——おかむやに VII(29)25

——しまよ

——ねん III(9)2, VII(12)18, VIII(23)17

——はい

——をかミ申候。 V(25)1, VIII(44)18

——をかみ申候。 VI(24)9, VI(29)14, VI(35)

——おかみ申候。 VIII(30)12

——おきなハの VIII(40)2

——からめき申候。 X(11)23

——はひ

——おかみめしよはる。 VII(17)8

——おかてあり。 VII(18)13

——まふり

——めしよハるけに VII(22)2

御—— 〈接辞〉

——はいおかミ申候。 III(10)21

ミいくに 〈副〉

——墓 X 20

ミおやし 〈動〉

くすくつみつけて——ちやれは VII(7)2

ミちはしつミつけて——たれハ VIII(17)2

ミこし(御腰) 〈名〉

ち金丸——ミ玉のわたり申候時に II(1)28

ミせせる 〈名〉

めしよわちやる——に VII(10)10

ミせゝる 〈名〉

めしよはちやる——に VIII(20)2

御せゝる 〈名〉

- たまわり申候。 III(5) 1
- 御たほひめしよわちへ VI(16) 2

ミ玉(御玉)〈名〉

- ち金丸ミこし—の II(2) 1

みち(道)〈名〉

- つくり V(1)15
- にいしはめさせて、 VIII(14)10

ミち(道)〈名〉

- つくり III(2) 1
- をつくり V(13)10
- はきよらく V(16)26
- すしの—に V(17)19
- はしつみつけて VIII(16)17

-ミちへ 〈補助〉

- からめき—て X(5) 9

-みちへ 〈補助〉

- つみ—て VI(13) 4

みつ(水)〈名〉

- のかくこのために III(13) 9
- のかくこハ VII(40)25
- のふかさあるけに VIII(13) 5

みつのと(癸)〈名〉

- のう V(19) 8, V(28)10
- とりのへに VI(14)21
- のうし VII(8) 8

みつのへ(壬)〈名〉

- むまのとし III(3) 6

ミなと(湊)〈名〉

- ま玉— III(1)26

ミはん(三番)〈名〉

- の大やくもいた VI(8)19, VIII(15) 2, VIII(32)

16

- の御ま人 VII(25)14

- のさとぬしへ VII(5) 2

ミ物(見物)〈名〉

- すゑつきの—いちやちや VI(19)24
- くもこはし—はし VIII(22)24

みやきせん(今帰仁)〈名〉

- のあんし I(6) 6

ミやこ(宮古)〈名〉

- より II(1)18
- やへまのおゑか人 VI(10) 4, VI(23)13

ミや平(宮平)〈名〉

- の大やくもい V(32) 3

みよ(滞)〈名〉

- はらて VII(15) 9

ミよ(滞)〈名〉

- おくの— III(6)17

見る 〈動〉

- このすミ—へし。 I(15)12

明 〈名〉

- 大— I(18) 7, V(28) 2, VII(33) 2, X(23) 4

む

-む 〈副助〉

- いつきやめ— VII(31)26, VII(42)19
- わうかなし— VII(17) 6

むかし(昔)〈名〉

- いまの事を V(6)20
- もろこしのていおう V(7)26
- から VII(22)14

昔 〈名〉

- 今にも X(13)10

むま(馬)〈名〉

- からおれるへし。 IV(1)15

むま(午)〈名〉

- ひのへ— VI(14)11, VI(36)13
- みつのへ—のとし III(3)10

むまれ(生まれ)〈動〉

— なから V(6)13

め

め(女)〈名〉

— とも V(25)19, X(7)15

-めさ(-召さ)〈補助〉

御たて—れ候。 X(14)20

めし(召し)〈動〉

御さうせ—よわちへ VI(7)7, IX(5)1,
IX(9)17

御さうせ—よハちへ VIII(1)7

御おもろ御たほい—よわちや事 VI(2)7,
VI(29)2

御せゝる御たほひ—よわちへ VI(16)12

御ゆわい—よわちや事 III(9)23

御ゆわい—よわちへ VI(20)20

御ゆわひ—よわちへ VI(28)14

まうはらひ—よわちやるミせゝるに VII(10)
2

まうはらひ—よハちやるミせゝるに VIII(19)
24

ミ御ミつかい—よわちへ IX(6)23

ミ御ミつかひ—よわちへ V(22)8

ミ御ミつか井—よわちへ VI(28)2

-めし(-召し)〈補助〉

あまこあわし—よわちへ V(22)22

いのり—よハちやるけに VII(15)21, VIII(24)22

御あそひ—よわる V(11)24

ミはひおかミ—よはる。 VII(17)15

おさため—よハやる。 VII(30)12

おさめ—よわる事 V(7)18

御すきり—よわちや事 X(2)12

御たかへ—よわるもり V(9)10

御たかへ—よわちや事 VII(29)15

御ちよわい—よハちゑ VIII(28)11

御ちよわい—よわる VII(43)16

御ちよわひ—よハちや事 VIII(26)2

御ちよわひ—よわに IX(8)1

御のほり—よわちへ VI(26)19

おほこり—よハちゑ VIII(27)12

御ほこり—よわちや事 V(23)5

御よひ—よわちへ VII(33)20, VII(38)21

おれ—よわちへ III(4)15

けらゑらし—よわちへ IX(5)22

さつけ—よわちへ V(5)17

さとり—よわちへ V(7)4

たて—よわちやる。 IX(10)7

御くらひをつき—よわちへ V(4)18

御くらゐをつき—よわちへ VIII(4)10

つけ—よわちへ VIII(7)17

teriあかり—よわちや事 VII(5)7

teriあかり—よわちやこと IX(3)6

ミまふり—よハるけに VII(22)6

をれ—よわちへ V(20)15, VI(15)15, VII(9)15

をれ—よハちゑ VIII(19)11

も

-も 〈副助〉

あんし—けすも IV(1)4, X(17)24

あんしおそいかなし— IX(7)20

あんしもけす— IV(1)8, X(17)28

よるもひる— V(26)13, VIII(44)16

よる—ひるも V(26)9, VIII(44)12

昔今に—あるましく候ほとに X(13)13

いつまで— VIII(43)9

千年萬年まで— X(17)7

わらへまで— VIII(41)11

- なるまで—— IX(8)25
 金より—— VII(34)19
 -もい(思い)〈接辞〉 ⇨もひ
 大ちよ——かなし IX(6)4
 おとちとの——かね I(3)24
 もし 〈副〉
 ——のちに I(14)6
 もの 〈名〉
 なきや——やれとも VII(23)14
 -もひ(思ひ)〈接辞〉 ⇨もい
 おきやか——かなし I(1)7
 も >(百)〈名〉
 と——ととひやくさとミはい VI(34)21
 もり(杜)〈名〉
 御たかへめしよわる—— V(9)16
 おしあけ—— VIII(21)12
 首里——またまもり VI(16)21
 たひら—— VII(21)5
 とよみ—— III(6)5
 首里もりまたま—— VI(16)27
 やへさ—— VII(11)11
 やらさ—— VII(3)26, VII(11)5
 やらさ——くすくに VII(29)12
 やらさ——くすくのかくこ VII(40)4
 よそい—— III(6)11
 世そふ—— VII(13)5
 もろこし(唐土)〈名〉
 ——のていわう V(8)1
 もん(文)〈名〉
 ひの—— II(2)22, III(2)23, V(2)4, VI(3)4,
 VII(2)4, IX(10)1, X(14)14
 や
 -や 〈副助〉
 なき——ものやれとも VII(23)13
 -や 〈副助〉
 あら時—— VII(25)12
 一はんのせい—— VII(25)30, VII(26)21
 しもしましりきやめのせい—— VII(28)24
 しま世のて—— VII(31)3
 くにのまた—— III(7)12
 国のまで—— VII(13)12
 くにのまで—— VII(23)29
 やに(様に)〈副助〉
 おかむ——おさためめしよハやる VII(30)5
 ねいしまいしの—— VII(31)18, VIII(43)2
 やへさもり(八重座杜)〈名〉
 やらさもり—— VII(11)8
 やへま(八重山)〈名〉
 ミやこ——のおゑか人 VI(10)8, VI(23)17
 やらさもり(屋良座杜)〈名〉
 ——のほかに VII(3)23
 ——やへさもり VII(11)2
 やらさもりくすく(屋良座杜城)〈名〉
 ——によりそふて VII(29)9
 ——のかくこ VII(40)1
 やりよる 〈助動〉
 御はか——けにてて IX(4)12
 やれ 〈助動〉
 なきやもの——とも VII(23)17
 ゆ
 ゆわい(祝い)〈名〉 ⇨ゆわひ, よハひ
 御——めしよわちや事 III(9)19
 はしくやうの御—— III(18)14
 ゆわい事(祝い事)〈名〉 ⇨いわい事
 御——あり。 VII(8)3
 ゆわひ(祝ひ)〈名〉 ⇨ゆわい, よハひ

- 御—めしよわちへ VI(20)16, VI(28)10
 御—申候。 VI(31)3
- よ
- 世〈名〉
 —の御さうせ III(11)26
 御—の御さうせ VI(6)29, VII(24)3, VII(10)26
 —のこしあて VI(18)10
 おらおそひの御くすく—のつちに VII(27)29
- 代〈名〉
 きようしゆんの御—ににたり。 V(8)22
 —の官人の X(11)6
- 世あすたへ(世長老部)〈名〉
 三人の— III(19)20
 —三人 V(29)2, VI(37)4, VII(34)2, VIII(46)3,
 IX(13)1, X(19)1
- ようし(要事)〈名〉
 国の— VII(3)5, VII(24)14
- ようとれ〈名〉
 うらおそいの—は IX(3)22
- よせらやい(寄せらやい)〈動〉
 せいくさ—てと VII(16)14
- よそいもり(世襲い杜)〈名〉
 とよミもり— III(6)8
- よそひおとん(世襲ひ御殿)〈名〉
 —の大あんし I(2)6
- 世そふもり(世襲ふ杜)〈名〉
 —国のまでやけらへハちへ VII(13)2
- 世つきたけ(世継ぎ嶽)〈名〉
 くもこたけ—おりあけわちへ VI(17)13
- 四日〈名〉
 五月— VII(8)18
- 四年〈名〉
 天啓— X(6)3, X(23)7
- よハちへ〈補助〉 ⇨よハちゑ, よわちへ
 このミ— VII(13)24
 ついさし— VII(14)13
 御さうせめし— VII(11)9
- よハちや〈補助〉 ⇨よわちや
 めし—事 VII(26)4
- よはちやる〈補助〉 ⇨よわちやる
 まうはらひめし—ミせゝるに VII(19)26
 -よハちやる〈補助〉
 いのりめし—けに VI(15)23
- よハちゑ〈補助〉 ⇨よハちへ, よわちへ
 御ちよわいめし— VII(28)13
 おほごりめし— VII(27)14
 をれめし— VII(19)13
- よハひ(祝ひ)〈名〉 ⇨ゆわい, ゆわひ, よ
 わい
 お— VII(19)25
- よハやる〈補助〉
 おさためめし—ミ御ミ事ハ VII(30)14
- よはる〈補助〉 ⇨よはる, よわる
 おかみめし— VII(17)17
- よハる〈補助〉 ⇨よはる, よわる
 しめさし— VII(20)6
 ミまふりめし—けに VII(22)8
 しめさし— VII(20)6
 ミまふりめし—けに VII(22)8
- よひ(呼ひ)〈動〉
 お—めしよわちへ VII(33)18
 御—めしよわちへ VII(38)19
- よミ(誦ミ)〈動〉
 さいもん—候て X(11)18
- よむたもさ(読谷山)〈名〉
 —の大やくもい IX(13)23
- より〈格助〉
 うらおそい—しよりに IX(2)14

- うらおそひ——しよりに VII(4)22
うらおそいまきり—— IX(11)22
おくと——上 VI(9)29, VI(23) 8
此御すし——ほかに X(17)14
こく——上下 VI(9)18, VI(22)29
そんとん——このかた V(3)20, VIII(3)12
たいり—— V(9)25
唐—— X(9) 7
てん——わうの御なをは VIII(6) 3
天—— V(4)26
みやこ—— II(1)21
千りやうの金——も VIII(34)17
よりそふ(寄り揃)〈動〉
やらさもりくすくに——て VII(29)19
よる(夜)〈名〉
——もひるも V(26) 7, VIII(44)10
-よる〈補助〉
あり——けに VI(6)19
よろこひ(喜び)〈動〉
——たのしむ事がきりなし。 V(27) 5
よわ 〈補助〉
御ちよわひめし——に IX(8) 3
-よわい 〈補助〉 ⇨よわひ
御ち——めしよハちゑ VIII(28) 8
御ち——めしよわる VIII(43)13
-よわちへ 〈補助〉 ⇨よハちへ, よハちゑ
あまこあわしめし—— V(22)24
御のほり—— VI(26)21
御よひめし—— VII(33)32, VII(38)23
おれめし—— III(4)17
かけ—— VIII(23) 4
けらゑらし—— IX(5)24
このミ—— VII(24) 5
さつけめし—— V(5)19
さとりめし—— V(7) 6
つかし—— III(7)25
つきめし—— V(4)20, VIII(4)12
つけめし—— VIII(7)19
つさし—— III(8)12
御さうせめし—— VI(7) 9, IX(5) 3, IX(9)19
御せゝる御たほひめし—— VI(16)14
御ゆわいめし—— VI(20)22
御ゆわひめし—— VI(28)16
ミ御ミつかいめし—— IX(6)25
ミ御ミつかひめし—— V(22)10
ミ御ミつか井めし—— VI(28) 4
わたし—— III(7)17, VIII(23)12
をれめし—— V(20)17, VI(15)17, VII(9)17
-よわちや 〈補助〉 ⇨よハちや
御すきりめし——事 X(2)14
御たかへめし——事 VIII(29)17
御ほこりめし——事 V(23) 7
てりあかりめし——事 VIII(5) 9
てりあかりめし——こと IX(3) 8
御ゆわいめし——事 III(9)25
御たほいめし——事 VI(21) 9, VI(29) 4
-よわちやる 〈補助〉 ⇨よハちやる
いのりめし——けに VII(24)24
まうはらひめし——ミせせるに VII(10) 4
このひのもんハたてめし——。 IX(10) 9
-よわひ 〈補助〉 ⇨よわい
御ち——めしよハちや事 VIII(25)21
御ち——めしよわに IX(7)24
-よわる 〈補助〉 ⇨よはる, よハる
御あそひめし——ところ V(11)26
おさめめし——事 V(7)20
御たかへめし——もり V(9)12
御ちよわいめし——御かほう VIII(43)18
ら ナシ

- り
- りうきう(琉球)〈名〉
— こくちうさんわう VII(2)7
大— 国 V(3)2
— 国 IX(1)1
- 琉球 〈名〉
— 国 VII(1)2
- りやう(両)〈接辞〉
千— の金を V(17)24
千— の金よりも VII(34)11
- る ナシ
- れ
- れ 〈助動〉
御たてめさ— 候。 X(14)22
- ろ
- 六月 〈名〉
— 二十四日 V(19)15
— 大吉日 VII(33)9
- 六日 〈名〉
十月— X(6)11
- わ
- わ 〈副助〉
ちへねんさしき— III(14)29
- わう(王)〈名〉
— の御くらゐを VII(3)26
— の御なをは VII(6)6
ちうさん— しやうねいハ VII(2)18
- 王 〈名〉
首里の— III(1)4, VI(1)4, X(1)4
— の御くらひ V(4)7
— の御なをは V(4)29
中山— VII(1)8
- わうかなし(王加那志)〈名〉
— む VII(17)1
— のおほこりめしよハちゑ VII(27)1
- 王かなし(王加那志)〈名〉
— ハ V(6)7
- わうにせ(王仁世)〈名〉
すゑまさる— てて VII(7)8
- 王にせ(王仁世)〈名〉
天つき— V(5)9
- 王にせかなし(王仁世加那志)〈名〉
すへまさる— は IX(2)1
- わか人(若人)〈名〉
おひ人— めとも V(25)15
おゑ人— おなこ VII(40)27
- わたし(渡し)〈動〉
はし— 申候時の III(2)11
— よわちへ III(7)14, VII(23)9
- わたり(渡り)〈動〉
— 申候 II(2)5
ま玉はしお— III(15)8
御— 候て御さ候間 X(9)22
- わちへ 〈補動〉 ⇨ハちへ
おりあけ— VI(17)23, VI(19)6, VII(22)6
いちやちやけらへ— VI(20)11
けらへ— てて VII(24)13
けらへ— X(3)4
つみあけ— VI(18)6, VI(19)14, VII(22)14
ととめ— III(8)23
- わらへ(童)〈名〉
— にいたるまで V(25)23

おなこ——までも VIII(4) 6
 —のいふにおよひ申さす。 X(7)19

ゐ

ゐ(亥)〈名〉

ひのとの——のへに X(6)18

ゑ

ゑくか(男)〈名〉

大小の——おなこ VIII(3) 6

——御三人 X(1) 1

ゑそてた(英祖のテダ)〈名〉

——の御はか IX(4) 1

を

-を 〈格助〉

いし——はめ V(1)12

王のくらひ——つきめしよわちへ V(4)14

御くらゐ——つきめしよわちへ VIII(4) 6

王の御な——は V(5) 3

わうの御な——は VIII(6)12

御ミ事——をかミ V(1) 4

かさり物——すゑ X(1)23

千りやうの金—— V(1)30

むかしいまの事—— V(6)28

ちから——そろへ V(1) 4

天下——おさめめしよわる事 V(7)13

まつ——うへれとの V(1)20

まつ——うへれは V(1)19

ミち——つくり V(1)12

をか(置か)〈動〉

はめさせて、——て VIII(4)23

をかみ(拜み)〈動〉

——申 V(1)10

おゑか——申候。 VI(3)16

ミ御ミ事——候て VI(8) 2

ミはい——申候 VI(2)18

をかミ(拜ミ)〈動〉

御ミ事を—— V(1) 6

ミ御ミ事——申候ほとに X(4) 1

ミはい——申候 V(2) 5, VI(2)13, VI(3) 5

VII(4)22

-をそひ(襲ひ)〈接辞〉 ⇨おそい, おそひ

あんし——かなし V(2)12

をりふし(折り節)〈名〉

——唐より X(9) 1

をれ(降れ)〈動〉 ⇨おれ

きこゑ大ききみきミの——めしよわちへ

V(2)13, VI(1)13

きこゑ大ききみきみの——めしよわちへ

VII(9)13

かミほとけの——めしよハちゑ VIII(1) 9

ん

-ん 〈副助〉

おくのよね—— VII(1)30

みくによに—— III(9)14

ミしまよね—— III(9) 7, VII(1)23, VIII(2)22

(83. 7)

(校正の段階で、本文の、分かち書きの仕方を改めたほうがよいと思われる箇所のあることに気付いたが、今回はそのままにしておく。)